

現在ご覧になっている学生募集要項には、入学志願書等はありません。  
出願の際には、下記URLより出願書類ダウンロード用ファイルを入手してください。  
URL： <https://www.oita-u.ac.jp/06nyushi/21daigakuin.html#komidashiigakukei>

# 大分大学大学院医学系研究科博士課程

Oita University Graduate School of Medicine Doctoral Program

## 学 生 募 集 要 項

## Application Guide

○春季入学（令和8年（2026年）4月入学）

○Spring Admissions (April 2026)

令和7年（2025年）5月

May 2025



# — 目 次 — CONTENTS

	ページ	page
○大分大学大学院医学系研究科 研修医・博士課程コース (ORPhDプログラム) .....	1	
○社会人への特例措置 .....	2	
<b>*Special Measures for Working Adults Admissions</b>		
○大分大学大学院医学系研究科博士課程入学受入れの方針 (アドミジョン・ポリシー:AP) ...	3	(29)
<b>*Admission Policy (AP) of Oita University Graduate School of Medicine</b>		
○大分大学大学院医学系研究科博士課程学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー: DP) ...	4	(31)
<b>*Oita University Graduate School of Medicine Diploma Policy (DP) in the Faculty of Medicine</b>		
 ＜春季入学＞ 令和8年(2026年)4月入学 Spring Admissions April 2026		
<b>【学生募集要項】 【Student Entry Requirements】</b>		
1. 入 試 日 程 Admission Schedule .....	6	(33)
2. 募 集 人 員 Number of Students Admitted .....	6	(33)
3. 出 願 資 格 Application Requirements .....	6	(33)
4. 出 願 資 格 認 定 Application Requirements Documentation .....	7	(34)
5. 出 願 手 続 Application Procedures .....	8	(35)
6. 受 験 票 の 交 付 Issue of Examination Slips .....	10	(37)
7. 入 学 者 選 抜 方 法 Selection Process of Successful Applicants .....	10	(37)
8. 合 格 者 発 表 Announcement of Results .....	11	(37)
9. 入 学 手 続 Enrollment Procedures .....	11	(38)
10. 入 学 料 及 び 授 業 料 Enrollment Fees and Tuition Fees .....	11	(38)
11. 問 合 せ 先 University Contact Information: .....	11	(38)
 ＜共通事項＞ General Information on Application		
<b>【入学案内】 【Admission Information】</b>		
1. 目 的 Goal of Education .....	13	(40)
2. 構成及び修業年限 Framework and Term of Study .....	13	(40)
3. 特 色 Features .....	13	(40)
4. 授業科目と担当教員一覧 Courses and Faculty Members .....	15	(41)
5. 履 修 方 法 Course Registration .....	22	(49)
6. 学 位 の 授 与 Degree Conferral .....	22	(49)
7. 奨 学 金 制 度 Scholarships .....	22	(49)
8. 育児支援サービス補助事業 Childcare Support Subsidy .....	22	(49)
9. 学生教育研究災害傷害保険 Student Research Accident Insurance .....	22	(50)
10. 長期履修制度について Information on Extension of Study Term .....	22	(50)
11. 指導教員(教授等)の連絡先一覧 .....	24	(51)
<b>Contact Information of Faculty Members (e.g., Professors)</b>		
○大分大学位置図 Location Map of Oita University .....	27	(54)

大分大学大学院医学系研究科 研修医・博士課程コース  
(ORPhD プログラム)

平成 16 年（2004 年）4 月より施行された新臨床医研修制度、ならびに平成 30 年（2018 年）4 月より施行された新専門医制度により、現状では学位取得までに医学部卒業後、最短で 9 年かかります。そのためか、近年、医学部卒業後、医学系研究科大学院博士課程に進学し、医学博士を取得する人数が減じています。

そこで令和 2 年度（2020 年度）から、本学大学院医学系研究科博士課程では、「大分大学大学院医学系研究科 研修医・博士課程コース（ORPhD プログラム）」を開設しました。本コースでは、大分大学医学部附属病院での初期研修医の時点から大学院博士課程に進学することが可能であり、医学部卒業後、最短 4 年、最長 8 年で学位取得に至ります。各個人のキャリアパスにおいて、卒後早期に博士課程に進学することで、ライフイベントを考慮することなく研究や臨床に打ち込むことができ、大学院修了後は、臨床、研究を問わず自由に様々なキャリアパスに挑戦することが可能となります。

本プログラムの前段階として、本学医学部在学時に大学院博士課程の必修科目を無償で受講・単位修得できる制度（Pre-ORPhD）があります。これは ORPhD プログラムとしての入学に必須のものではありませんが、初期研修と大学院の必修科目受講との同時進行を回避できるため、大きなメリットとなります。

## 社 会 人 へ の 特 例 措 置

近年、大学院における社会人の再教育への要望が高まっていますが、通常の方法のみで大学院教育を実施した場合、社会人は勤務を離れて就学することが必要となるため、大学院教育を受ける機会が制約されることになります。

このため、大学院設置基準第 14 条では、「大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。」旨規定され、社会人の就学に特別措置を行うことが配慮されています。

このことを踏まえ、本学大学院医学系研究科博士課程では、医学並びに医療関連分野で活躍している社会人に対し、高度の医学研究能力を身につける機会を与えるため、大学院設置基準第 14 条に定める教育方法の特例を適用して、平成 13 年度から昼夜開講制による授業等を実施しています。

## Special Measures for Working Adults Admissions

Recently, an increasing number of working adults wish to study at graduate School. In the past it was necessary for Working Adult students to quit their jobs due to restricted class schedules.

Article 14 of the Standards for the Establishment of Graduate School Law states, in the need for special consideration to study at Graduate School, night courses and classes will be available outside regular times. Universities are considering making these courses available.

In accordance with Article 14, Oita University Graduate School of Medicine has been offering adults working in medicine or medical fields the opportunity to study and research at a high level since 2001.

# 大分大学大学院医学系研究科博士課程入学受入れの方針 (アドミッション・ポリシー：AP)

## 基本理念

複雑化・高度化する医学・医療の分野で、常に最新の学術を教授・研究し、高度の医学及び看護学の知識と技術並びにそれらの本義を見失わない倫理観と、それを支える豊かな教養を身につけた教育・研究者及び医療人を養成し、もって医学及び看護学の進歩、国民の健康の維持増進、更に医療・保健を中心に地域及び国際社会の福祉に寄与することが基本理念です。

## 教育・研究の目標

### 博士課程

豊かな学識及び人間性を持った人材を育成し、国際的に活躍できる自立した教育・研究者及び診療能力の高い臨床医を養成します。

## 求める学生像

### 博士課程

- 1 医学の分野において、国際的な舞台で活躍することを志す人
- 2 専門分野における高度な知識を吸収し、その整理・明確化を行い、問題点の発掘を行い、その本質を基礎医学、臨床医学、社会医学等の枠にとらわれない総合的・科学的観点から探求し、自らが設定した課題について研究を志す人
- 3 自らの研究成果について、国際的に評価の定まっている学術誌に公表し、積極的に評価を受けることを志す人
- 4 医学の進歩に貢献し、人類の健康について、維持・増進への取り組みを志す人
- 5 国民のがんに対する関心・意識の高まりに伴い、高度な教育・研究・診療能力を兼ね備えたがんプロフェッショナルを志す人

## 入学受入れの基本方針

### 博士課程

前述の「求める学生像」にふさわしい学生を選抜するため、高度な専門的知識、技術及び能力を求めます。また、これらを支える高い道德観と豊かな人間性を備え、国際的・学際的に活躍できる資質を求めます。

この方針のもとに、入学受入れの選抜は、筆記試験及び口述試験の結果を総合して行います。

### 選抜試験で重視する観点

入試区分	検査項目	求める学生像				
		国際的な舞台で活躍することを志す	自らが設定した課題について研究を志す	積極的に評価を受けることを志す	人類の健康について、維持・増進への取り組みを志す	高度な教育・研究・診療能力を兼ね備えたがんプロフェッショナルを志す
博士課程入試	筆記試験	◎	○	○	○	○
	口述試験	○	◎	○	◎	○

◎は特に重視する

## 大分大学大学院医学系研究科博士課程学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー：DP)

既定の教育課程を修了し、以下の能力を修得した学生に、博士（医学）の学位を授与します。

### 〈高度な知識と知的能力〉

- ・科学的基盤に基づいて先端医療を理解又は実践することができる。
- ・基礎・臨床医学、及び生命科学における深い学識と高度な情報収集能力・分析能力および研究技術を備えている。

### 〈確かな研究マネジメント能力〉

- ・実験室や調査フィールドあるいは臨床の場における実践的な経験に基づいた、医学者としての研究者倫理を有している。
- ・自らの研究歴あるいは臨床経験に基づいて、その学識・能力・技術を基盤に、自ら課題を見出し、それを解決・展開できる。

### 〈社会を牽引する能力〉

- ・自らの研究成果を客観的に分析し、目的と背景・研究方法・結果・考察、さらに今後の発展の可能性について発表し討議することができると共に、その成果を欧文論文として発表する総合的な情報発信能力を有する。
- ・医学研究を通して人類の繁栄と福祉に貢献することができる。

**春季入学（令和 8 年（2026年） 4 月入学）**

## 学生募集要項

### 1. 入試日程

区 分	第 1 次募集	第 2 次募集 ※	第 3 次募集 ※
出 願 期 間	令和 7 年(2025 年) 6 月 27 日(金) ～令和 7 年(2025 年) 7 月 3 日(木)	令和 8 年(2026 年) 1 月 5 日(月) ～令和 8 年(2026 年) 1 月 8 日(木)	令和 8 年(2026 年) 2 月 9 日(月) ～令和 8 年(2026 年) 2 月 13 日(金)
試 験 日	令和 7 年(2025 年) 7 月 16 日(水)	令和 8 年(2026 年) 1 月 22 日(木)	令和 8 年(2026 年) 3 月 6 日(金)
合格者発表	令和 7 年(2025 年) 8 月 20 日(水)	令和 8 年(2026 年) 2 月 6 日(金)	令和 8 年(2026 年) 3 月 23 日(月)

※募集人員に達した場合は、以後の募集は行いません。

※第 2 次募集、第 3 次募集を行う場合は、本学ホームページでお知らせします。

### 2. 募集人員 医学専攻 30 名

[募集人員は、昼夜開講制による社会人を含みます。]

専 攻	領 域	募 集 人 員
医学専攻	基礎研究領域	30 名
	臨床研究領域	
	がん研究領域	
	理学療法研究領域	

(備考)

1. 入学志願者は、志望する領域に順位をつけて、第 2 志望まで出願することができます。
2. 社会人とは、官公庁、病院、企業等において医師又は研究者等として勤務し、入学後も職を有する者をいいます。  
※社会人が、大学院教育を受けやすくするために、本研究科では大学院設置基準第 14 条の教育方法の特例（昼夜開講制）を適用します。教育方法の特例を受ける者は、指導教員と相談の上、授業及び研究指導を夜間や特定の時間又は時期に受けることができます。（P.2 の「社会人への特例措置」参照）
3. 大分大学大学院医学系研究科 研修医・博士課程コース（ORPhD プログラム）とは、大分大学医学部附属病院での初期研修医の時点から大学院博士課程に進学することが可能であり、医学部卒業後、最短 4 年、最長 8 年で学位取得可能なプログラムです。

### 3. 出願資格

次のいずれかに該当する者（令和 8 年（2026 年）3 月末までに出願資格に該当する見込みの者も可）

- (1) 大学の医学、歯学又は修業年限 6 年の薬学若しくは獣医学を履修する課程を卒業した者
- (2) 外国において、学校教育における 18 年の課程（最終の課程は医学、歯学、薬学又は獣医学）を修了した者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 18 年の課程（最終の課程は医学、歯学、薬学又は獣医学）を修了した者
- (4) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 18 年の課程（最終の課程は医学、歯学、薬学又は獣医学）を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (5) 大学の医学、歯学又は修業年限が 6 年の薬学若しくは獣医学を履修する課程に 4 年以上在学した者、外国において学校教育における 16 年の課程（最終の課程は医学、歯学、薬学又は獣医



学)を修了した者、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程(最終の課程は医学、歯学、薬学又は獣医学)を修了した者、又は我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者で、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者

(6) 文部科学大臣の指定した者

- ①旧大学令(大正7年勅令第388号)による大学の医学又は歯学の学部において医学又は歯学を履修し、これらの学部を卒業した者
- ②防衛省設置法(昭和29年法律第164号)による防衛医科大学校を卒業した者
- ③修士課程を修了した者及び令和8年(2026年)3月修了見込みの者
- ④前期2年及び後期3年の課程の区分を設けない博士課程に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた者(学位規則の一部を改正する省令(昭和49年文部省令第29号)による改正前の学位規則(昭和28年文部省令第9号)第6条第1号に該当する者を含む。)で、大学院又は専攻科において、大学の医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者
- ⑤大学(医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を除く。)を卒業し、又は外国において学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、大学院又は専攻科において、当該研究の成果等により、大学の医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

(7) 本学大学院において、個別の出願資格審査により、大学の医学、歯学又は修業年限が6年の薬学若しくは獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達した者

## 4. 出願資格認定

前記「3. 出願資格」の(5)、(6)の④、⑤、(7)のいずれかにより出願しようとする者は、事前に出願資格の審査を受け、出願資格を有することが認定された者のみ出願することができますので、関係書類を次により提出してください。

(1) 提出書類

①出願資格(5)により出願しようとする場合

提出書類	摘 要
① 出願資格認定申請書	本学ホームページから所定の様式をダウンロードして使用してください。外国籍を有する者は「外国人志願者用」に記入してください。
② 成績証明書	出身学校の長が証明したもの。
③ 在学証明書(在学年次が明記されているもの)、または修了証明書	日本語及び英語以外の証明書は、日本語訳又は英語訳を添付してください。 ※改姓により、現在の氏名と証明書の氏名が相違する場合は、戸籍抄本等の改姓の事実が確認できる書類を提出してください。
④ 研究計画書	本学ホームページから所定の様式をダウンロードして使用してください。

②出願資格(6)の④、⑤、(7)により出願しようとする場合

提出書類	摘 要
① 出願資格認定申請書	本学ホームページから所定の様式をダウンロードして使用してください。外国籍を有する者は「外国人志願者用」に記入してください。

② 成績証明書	出身学校の長が証明したもの。 日本語及び英語以外の証明書は、日本語訳又は英語訳を添付してください。 ※改姓により、現在の氏名と証明書の氏名が相違する場合は、戸籍抄本等の改姓の事実が確認できる書類を提出してください。
③ 研究計画書	本学ホームページから所定の様式をダウンロードして使用してください。
④ 業績一覧	同上（主な業績のコピーを各1部添付してください。 ただし、提出する業績は3篇までとします。）

※本学所定の様式は下記 URL からダウンロードできます。

<https://www.oita-u.ac.jp/06nyushi/21daigakuin.html>

- (2) 提出期間 第1次募集 令和7年(2025年)6月2日(月)～6月6日(金)17時まで(必着)  
第2次募集 令和7年(2025年)11月4日(火)～11月7日(金)17時まで(必着)  
第3次募集 令和8年(2026年)1月5日(月)～1月8日(木)17時まで(必着)
- (3) 提出方法 「速達簡易書留」郵便で、封筒の表に「出願資格認定申請書在中」と朱書きし、郵送してください。
- (4) 提出先 〒870-1192 大分市大字旦野原 700 番地 大分大学学生支援部入試課
- (5) 認定の結果 出願資格審査の結果は、提出書類に基づき審査し、下記期日までに本人に通知します。
- 第1次募集 令和7年(2025年)6月23日(月)  
第2次募集 令和7年(2025年)11月28日(金)  
第3次募集 令和8年(2026年)1月30日(金)


## 5. 出願手続

- (1) 出願期間 第1次募集 令和7年(2025年)6月27日(金)～7月3日(木)17時まで(必着)  
第2次募集 令和8年(2026年)1月5日(月)～1月8日(木)17時まで(必着)  
第3次募集 令和8年(2026年)2月9日(月)～2月13日(金)17時まで(必着)
- (2) 出願方法
- ①第2志望の領域まで出願することができます。
- ②出願を希望する者は、あらかじめ志望(第1志望)する指導教員(P.24～26)と研究内容等について相談の上、出願してください。
- ③出願書類等をまとめて市販の角2封筒に入れ、封筒の表に入学志願書類送付用宛名ラベルを貼付し、「速達簡易書留」郵便で下記「提出先」宛に郵送してください。

(提出先) 〒870-1192 大分市大字旦野原700番地  
大分大学学生支援部入試課

- (3) 出願書類等(提出された書類は返還しません。)

出 願 書 類 等	摘 要
① 入 学 志 願 書	本学ホームページから所定の様式をダウンロードして使用してください。入学志願書下欄の「記入上の注意」をよく読んで記入してください。外国籍を有する者は「外国人志願者用」に記入してください。
② 写 真 票 ・ 受 験 票	本学ホームページから所定の様式をダウンロードして使用してください。上半身・脱帽・正面向きで本人であると確認できる写真(縦4cm×横3cm)をそれぞれの所定欄に貼ってください。

<p>③ 入学検定料振替 払込受付証明書等 (30,000 円)</p>	<p>下記URLから申し込み、受付番号を入手後コンビニエンスストアでお支払いください。</p> <p>お支払い後は、「収納証明書（コンビニエンスストアによっては領収書）」を受験票下の貼付欄に貼ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコンからの本学ホームページ (<a href="https://www.oita-u.ac.jp/">https://www.oita-u.ac.jp/</a>) 上部メニュー → <b>入試情報</b> → <b>入学検定料のコンビニ収納</b> から申し込んでください。</li> <li>・携帯電話からの申込みURL (<a href="https://www.oita-u.net/mobile/">https://www.oita-u.net/mobile/</a>) ※フィルタリングサービスをご利用の携帯電話からは、アクセスできないことがあります。 ※手数料は本人負担です。 ※納入した検定料は返還できません。</li> </ul> <p><b>※国費外国人留学生並びに令和8年（2026年）3月に本研究科及び本学の他研究科修士課程（博士前期課程を含む。）を修了見込みの者で、引き続き本課程に進学する者は、納付する必要はありません。</b></p> 
<p>④ 成績証明書</p>	<p>出身学校の長が証明したもの。日本語及び英語以外の証明書は、日本語訳又は英語訳を添付してください。 (ただし、出願資格認定申請時に提出済みの場合は、不要です。)</p>
<p>⑤ 卒業（見込）証明書 又は修了（見込）証明書</p>	<p>出身学校の長が証明したもの。日本語及び英語以外の証明書は、日本語訳又は英語訳を添付してください。 (ただし、出願資格認定申請時に提出済みの場合は、不要です。)</p>
<p>⑥ 受験及び就学承諾書</p>	<p>本学ホームページから所定の様式をダウンロードして使用してください。病院や官公庁その他民間会社等に在職中で、入学後も在職のまま就学する者で、昼夜開講制による志願者のみ提出してください。</p>
<p>⑦ 住民票の写し (外国人志願者のみ)</p>	<p>日本に在住する外国人は、市・区・町・村長の発行した「住民票の写し」（在留資格が記載されたもの）を提出してください。なお、入学志願書等には、この住民票の写しに記載された氏名を記入してください。</p>
<p>⑧ 出願資格認定通知書（写）</p>	<p>本学の出願資格審査を受け、出願資格ありと認定されたのちに出願する者は、出願資格認定通知書のコピーを提出してください。</p>
<p>⑨ 住所票</p>	<p>本学ホームページから所定の様式をダウンロードし、志願者の氏名・住所（合格通知等を受け取る場所）・郵便番号を必ず記入してください。</p>
<p>⑩ 受験票等送付用封筒</p>	<p>市販の長形3号封筒に志願者の氏名・住所・郵便番号を記入し、郵便切手（410円）を貼ってください。</p>
<p>⑪ 戸籍抄本等の写し (改姓した者のみ)</p>	<p>改姓により、現在の氏名と各提出書類の氏名が相違する場合は、戸籍抄本等の改姓の事実が確認できる書類を提出してください。</p>

※本学所定の様式は下記 URL からダウンロードできます。

<https://www.oita-u.ac.jp/06nyushi/21daigakuin.html>

#### (4) 出願上の注意事項

- ①入学志願書の記入漏れ等がないように十分留意してください。
- ②各提出書類に入学区分（秋季入学（令和7年（2025年）10月入学）及び春季入学（令和8年（2026年）4月入学））を選択する項目があります。選択間違いのないように気を付けてください。
- ③一度受理した出願書類等及び入学検定料は、いかなる理由があっても返還しません。
- ④出願期間後に到着したもの及び出願書類等に不備があるものは受付できません。
- ⑤出願書類等は一括してとりそろえ、出願者が直接出願してください。

⑥出願書類の記載事項と事実が相違していることが判明した場合は、入学後でも入学許可を取り消すことがあります。

⑦障がいのある者等の事前相談について

障がいを有する等、受験上特別な措置及び修学上特別な配慮を必要とする可能性がある入学志願者については、次の事項を記載した本学所定の受験上の配慮申請書に医師の診断書を添えて下記期日までに本学学生支援部入試課に提出してください。

- |       |                        |                      |   |
|-------|------------------------|----------------------|---|
| 〔     | ・障がいの種類・程度             | ・受験の際に特別な配慮を希望する事項   | 〕 |
|       | ・修学の際に特別な配慮を希望する事項     | ・日常生活の状況及びその他参考となる事項 |   |
| 第1次募集 | 令和7年（2025年）6月9日（月）まで   |                      |   |
| 第2次募集 | 令和7年（2025年）11月13日（木）まで |                      |   |
| 第3次募集 | 令和8年（2026年）1月13日（火）まで  |                      |   |

⑧入学志願者から提出された出願書類等に記載されている個人情報については、「個人情報の保護に関する法律」及び「国立大学法人大分大学個人情報保護ポリシー」に基づき、入学者選抜に係る業務・統計処理などの付随する業務以外には利用しません。ただし、入学料・授業料免除（猶予）及び奨学金を申請した者にあつては、選考資料として利用します。

⑨災害に関する特別措置（入学検定料等）につきましては、本学ホームページ (<https://www.oita-u.ac.jp/>) でお知らせします。

## 6. 受験票の交付

受験票は、出願書類受理後、本人に郵送により交付します。

なお、試験前日までに受験票が到着しないとき、又は受験票を紛失したときは、出願時に提出したものと同一の写真を1枚持参の上、試験当日に受付へ申し出てください。

## 7. 入学者選抜方法

（1）入学者選抜は、筆記試験の成績、口述試験の結果及び成績証明書の内容を総合して行います。

学力検査等の科目及び日時等

期 日	試験科目等	時 間	備 考
第1次募集 令和7年（2025年）7月16日（水）	英 語 （筆記試験）	10:00～12:00	語学の辞書（電子辞書及び医学英語辞書類を除く。）の持込みを許可します。
第2次募集 令和8年（2026年）1月22日（木）			
第3次募集 令和8年（2026年）3月6日（金）	口述試験 （志望する領域を中心に行います。）	13:00～	

※試験開始時刻に遅刻した場合は、試験開始時刻後 20 分以内に試験室へ到着した場合に限り、受験を認めます。

※海外居住者で、試験のために来日することができない場合は、事前に指導教員に相談の上、研究科の許可を得た場合に限り、上記に代えてインターネット回線による口述試験を行うことがあります。

（2）試験会場

大分大学大学院医学系研究科 <sup>はさま</sup> 挾間キャンパス

所 在 地 由布市挾間町医大ケ丘1丁目1番地（P. 27の大分大学位置図参照）

交通アクセス 〈バス利用〉

大分バス 〔中央通り②のりば（トキハデパート前）〕又はJR大分駅府内中央口（北口）〔大分駅前5番のりば〕から「大学病院」行き又は「大学病院」経路を利用（約40分）、「大学病院」下車（詳細は時刻表で確認してください。）

## 8. 合格者発表

第1次募集 令和7年（2025年）8月20日（水）10時

第2次募集 令和8年（2026年）2月6日（金）10時

第3次募集 令和8年（2026年）3月23日（月）10時

合格者には郵送により通知します。

また、本学ホームページ（<https://www.oita-u.ac.jp/>）にも合格者受験番号を掲載します。

なお、電話による合否の問い合わせには一切お応えしません。

## 9. 入学手続

入学手続の詳細については、合格通知とともに送付する「入学手続のご案内」によりお知らせします。

なお、入学手続日に入学手続をしなかった者は、入学辞退者として取り扱います。

## 10. 入学料及び授業料

入学料 282,000 円

授業料（年額） 535,800 円（前期分 267,900 円 後期分 267,900 円）

注1 入学料については、免除・徴収猶予の制度が、授業料については免除の制度があります。免除・徴収猶予の申請は、入学手続期間に行う必要がありますので、詳細については、学生・留学生支援課奨学支援係（TEL 097-554-7386）までお問い合わせください。

注2 入学料・授業料は改定されることがあります。

なお、在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定後の授業料が適用されます。

注3 既納の入学料は返還できません。

注4 入学料の免除・徴収猶予を申請される方は、入学料を払い込まずに入学手続期間に申請書類を提出してください。ただし、入学手続完了後に入学を辞退した場合は、直ちに入学料を納付しなければなりません。

注5 国費外国人留学生については、入学料・授業料を納付する必要はありません。

注6 入学料については、令和8年（2026年）3月に本研究科及び本学その他研究科修士課程（博士前期課程を含む。）を修了し、引き続き本課程に進学する者は、納付する必要はありません。

## 11. 問合せ先

大分大学学生支援部入試課

〒870-1192 大分市大字旦野原 700 番地

TEL 097-554-7006

# 共 通 事 項

# 入 学 案 内

## 1. 目 的

本学大学院医学系研究科博士課程は、最新の学術を教授・研究し、豊かな教養を身に付けた教育・研究者及び医療人を育成し、もって国民の健康の維持増進を図り、更に地域及び国際社会の福祉に貢献する人材を養成することを目的とします。

## 2. 構成及び修業年限

医学専攻として専攻を単一化し、その中に「基礎研究領域」、「臨床研究領域」、及び「がん研究領域」及び「理学療法研究領域」の4つの領域を設定したうえ、相互に関連づいた履修を可能にしています。

修業年限は4年を標準とします。

## 3. 特 色

### (1) 研究領域の構成と教員組織

医学部においては講座制を採っていますが、本研究科ではこれを更に推進し、従来の講座間の壁を取り払い、「基礎研究領域」、「臨床研究領域」と大きく二分しました。

このことにより、専攻内では当然のことながら、領域間においても教員同士密接な連携をとることが可能であり、人間の複雑多彩な生命現象を自然科学・社会科学を含めた広い視野に立ち、あらゆる分野からの研究活動が可能です。

さらに、両領域のがん関連科目で構成する「がん研究領域」を設置し、多角的ながん研究拠点として社会的要請に応えうる人材を育成します。

また、「理学療法研究領域」を設置し、基礎科学や医学を礎とした理学療法学の構築に貢献できる人材及び地域のリハビリテーション医療や健康増進を牽引する人材を育成します。

### (2) 複数の教員による指導体制

医学の高度化・専門化・細分化が急速に進む現在、基礎医学・臨床医学の区分にとらわれず、それら相互間、あるいは分野間双方に係る研究についての指導体制をとる必要から、修学上及び学生生活上の指導を主とする修学指導教員・博士論文作成のための指導を主とする研究指導教員の複数指導体制を採っています。

### (3) 大分大学大学院医学系研究科 研修医・博士課程コース (ORPhD プログラム)

1. 本医学系研究科では、「大分大学大学院医学系研究科 研修医・博士課程コース」により、希望者は、卒業後に臨床研修を受けながら、大学院医学系研究科博士課程コースに進学することが可能です。
2. 「大分大学大学院医学系研究科 研修医・博士課程コース」とは、具体的には大分大学附属病院にて「**卒後臨床研修**」を受けながら、研修1年目から「**大学院医学系研究科博士課程**」への入学が可能となるプログラムで、“臨床と大学院医学系研究科博士課程をシームレスに連結する”キャリアパスを提案できます。
3. 本プログラムの前段階として、本学医学部在学時に大学院博士課程の必修科目を無償で受講・単位修得できる制度 (Pre-ORPhD) があります。これは ORPhD プログラムとしての入学に必須のものではありませんが、初期研修と大学院の必修科目受講との同時進行を回避できるため、大きなメリットとなります。

4. 「大分大学大学院医学系研究科 研修医・博士課程コース」に進学することで、医学部卒業後、医学博士取得までの期間が短縮されると同時に、早期に臨床にて得た知識をさらに深く追究することで、その後のキャリアに大変有用となります。
5. 「大分大学大学院医学系研究科 研修医・博士課程コース」にて学位取得後は、各々が描いたキャリアパスに向かって、自由に進路を進めて行くことが可能です。
6. 本研究科では、「大分大学大学院医学系研究科 研修医・博士課程コース」を推進するため、医学系研究科博士課程修学期間を通常の4年間から長期履修可能な8年間に設定しています。

※本募集要項においては、次のとおり略記を使用しています。

卒後臨床研修・・・医師法（昭和二十三年七月三十日法律第二百一号）第16条の2第1項に規定する臨床研修



#### 4. 授業科目と担当教員一覧（令和7年（2025年）5月現在）

##### 【共通科目】

授業科目	授業科目の概要	担当教員
研究推進実践論	<p>（実践セミナー） 実験の手法や手技、各分野に共通した基本的理論修得のために必要な最新の医学・医療知識を学ぶことにより、研究着手に際して必要な技術を習得する。</p> <p>（大学院セミナー） 教授・准教授による専門性を凝縮した講義で、個別の研究に幅を持たせ、診療に従事する際の視野を拡げる。</p> <p>これらを年間を通じた日程で行うが、社会人学生には都合に合わせて選択履修が可能な措置を講ずる。</p> <p>（地域医療実践） 社会人学生で、特に地域医療にかかわる者にあつては、指導教員と協議の上で地域医療実践計画書を作成し、上記セミナーでの講義と共に自らが携わる医療現場での症例経験を検討し、地域医療現場での業務の発表や報告書の提出をもって、講義の一部に換えて評価する場合もある。</p>	全教員
医療英語	医療英語語彙を習得し、医学英語論文理解・作成のためのリーディングとライティング技能を練成する。	森 茂 大下 晴美
医療英会話	医療英語語彙を習得し、学会でポスターおよび口頭発表を行うことができる英語のスピーキング・リスニング技能を練成する。	森 茂 ショーン・チドゥロウ
生命倫理学	臨床倫理と研究倫理の歴史と概要を俯瞰する。その上で、個別の倫理的課題について主体的に学習する。	今井 浩光
医学統計	医学研究計画の型、データの整理、標本分布、推定と検定、回帰分析、実験計画法、数理感染症モデルを講義する。また、実際の医学研究での統計解析例も紹介する。	不開講
医療情報システム学	病院情報システム全般を理解すると共に、診療情報から研究用のデータベースを作成する際に必要な知識と技術を習得する。	下村 剛 安德 恭彰

##### 【基礎研究領域】

授業科目	授業科目の概要	担当教員
ストレスと健康の心理行動科学	本科目では、現代社会の多様なストレスと健康の問題を心理学的、社会的、公衆衛生学的な観点から多角的に学習し、その理解を深めるとともに、ストレスと健康問題にアプローチするために心理学的、行動科学的視点や研究法を身につけることを目指している。	不開講
組織病理学	生検・手術検体の処理、組織標本の作成、病理組織診断の習得、剖検例のまとめと CPC 発表を行う。	駄阿 勉 西田 陽登
がんのゲノム医科学	癌化のメカニズムの核心であるゲノム異常を網羅的に解析して、各臓器癌の発症、進展の分子機構を明らかにする。	松浦 恵子 泥谷 直樹 塚本 善之
イオンチャネルの病態生理学	イオンチャネルの分子機能と病態下での発現制御を解明して細胞内環境の維持と破綻に関わるイオンチャネルの役割を明らかにする。	不開講
分子神経科学	神経科学分野の新規生理機能解析にあたり、最新の知見を取り入れ、分子レベルならびに神経回路に基づいた理解を目指す。	花田 礼子 黒川 竜紀
がんの分子生物学	分子および細胞レベルから、癌の発生メカニズムを理解する。	濱田 文彦

授業科目	授業科目の概要	担当教員
がんのリンパ学	癌のリンパ行性転移と腹膜播種性転移のメカニズムを学ぶ。	濱田 文彦 三浦 真弘
分子形態学	細胞間コミュニケーションを担うギャップ結合 (GJ) に対する単クローン性抗体を用いた GJ 形成過程を解析する。	不開講
組織形態機能学	免疫電子顕微鏡を用い臓器に発現するタンパク質を in Situ で統計学的に定量評価する。	千葉 政一
分子細胞生物学	遺伝子改変動物および細胞培養系を用いた疾患モデルの構築とその解析方法について学ぶ。	花田 俊勝 清水 誠之
マトリックス生物学	細胞外マトリックスに存在する分子の発現や機能について学習する。	松尾 哲孝
遺伝子工学	粘膜感染病原細菌と宿主の相互作用による感染現象を、最新の研究動向を交えて学習する。さらに、分子・細胞レベル、および実験動物を用いた臓器・個体レベルでの多角的な解析方法を修得することで、病原細菌感染機構の解明を目指す。	三室 仁美 三好 智博
分子薬理学	薬物の新規標的分子を探索に必要な方法や知識を紹介する。	石崎 敏理
人間生命医科学発展	医学に直結した生命科学を理解し実践するため、動物の観察や実験、正常と疾患の細胞・組織の観察、DNA 抽出などを含む分子生物学的手法を学ぶ。	松浦 恵子
分子細胞免疫学	免疫学の分子基盤について分子レベルおよび細胞レベルでの理解を目指して最新のトピックスも交えて学習する。	小林 隆志 神山 長慶
節足動物媒介性感染症学	吸血性昆虫やダニが媒介する感染症の伝播の多様な仕組みや環境要因変化、特に温暖化の影響を学ぶ。	不開講
微生物感染免疫学	細菌・ウイルスによる感染病態の解明、なかでもウイルスの病原性発現機構と宿主の自然免疫・獲得免疫応答の関わり、さらにこれらを基盤とした治療・予防法について講義・演習・実習により学習・習得する。	河本 聡志
分子標的製剤学	感染症や悪性新生物に対する分子標的治療薬の作用機序の理解と、それらの開発・応用について、講義・演習・実習により習得する。	伊波 英克
感染症疫学	感染症の発生と流行様式を疫学の視点から学び、その基礎的な解析と感染症管理の考え方を習得する。	徳丸 治晃 西園 功 斉藤 功
分子疫学	ゲノム解析、生命情報科学および分子生物学的手法を用い、ピロリ菌感染症による胃癌を含む胃十二指腸疾患の発生機序、および国際的に展開される疫学研究について学習する。	山岡 吉生 松本 昂 松尾 祐一
睡眠公衆衛生	睡眠習慣に関する公衆衛生や疫学研究に関する演習を行って、公衆衛生・疫学に関する基礎知識と研究手法について学習する。	不開講
臨床疫学	臨床医学で遭遇する問題に対して疫学的手法を用いて、その構造解析や解決策について研究する。特に、地域集団を対象に、循環器疾患の疫学研究を展開する。臨床疫学の基礎から応用までを学び、疫学研究が遂行できる能力を身に着ける。	斉藤 功
産業中毒学	産業現場で利用されている種々化学物質の中毒を予防するため化学物質の曝露、吸収、分布、代謝、排泄の各プロセスでの化学物質の動態を習得し、実践的な中毒予防策を実践できるようにする。	不開講

授業科目	授業科目の概要	担当教員
遺体診断学の確立	死後変化が臨場医学で使われている技術に与える影響を学び、最終的には死因の特定が実施できる技術を習得する。	森 晋二郎
生物物理化学	生物由来の化合物の構造・機能・反応性について、物理化学的に考察する。	谷川 雅人 下田 恵
微小循環学	正常、高血糖下および高血圧下における細動脈、毛細血管および細静脈の形態と機能を教授し、毛細血管の新生についても言及する。さらに、毛細リンパ管（リンパ管）の同定、分布および癌の伸展とその関連を討議する。	不開講

#### 【臨床研究領域】

授業科目	授業科目の概要	担当教員
内分泌代謝・免疫・腎臓病の分子病態医学	内分泌、自己免疫疾患及び肥満・糖尿病、高血圧、腎疾患をはじめとする生活習慣病の発症メカニズムと治療に関する研究を、遺伝要因も含め臓器横断的に行う。	柴田 洋孝 福田 顕弘 吉田 雄一
呼吸器内科学・感染症学の実践 EBM	基礎および臨床研究を通じて呼吸器疾患の診断法と治療法の高度な理論と実践、および併発する感染症の制御ができ、EBM が構築できることを目標とする。	平松 和史 小宮 幸作
神経病態科学・認知症医科学	神経疾患及び認知症の分子病態解析、診断・治療法の開発、予防について基礎・臨床の両側面から学習し、研究する。	木村 成志 増田 曜章 角 華織
脳卒中病学	神経疾患としての脳卒中の理解に加え、循環器疾患、血液疾患、老年病としての観点から多角的に病態を理解し、診断・治療法の開発、予防について実験や診療を通じて学習し、研究する。	不開講
消化器感染症と発癌	消化器の持続感染と発癌との関連性について分子生物学的手法を用いて研究する。	兒玉 雅明 水上 一弘 遠藤 美月 内田 宅郎
消化器内視鏡学	消化器内視鏡学を通して上部・下部消化管疾患、胆道・膵臓疾患を研究する。	兒玉 雅明 水上 一弘 平下 有香
臨床心臓病学	心血管疾患の病態生理を理解し、発生機序から治療を考え、基礎的研究から治療への探索的研究を目指す。具体的には、虚血・再灌流障害の発生機序を研究し、合併する不整脈の発生機序の解明と治療の開発を目指す。	高橋 尚彦 秋岡 秀文
加齢心臓病学	加齢に伴う心血管系の変化を理解し、老化・加齢の観点から心臓血管病の病態生理を把握し臨床に応用する能力を身に付けることを目的とする。基礎的研究から治療への探索的研究を目指す。	手嶋 泰之 篠原 徹二
外科循環制御学	心臓疾患・動脈疾患に対する外科的介入方法とその適応を学び、外科侵襲の身体に与える功罪を理解する。	宮本 伸二 穴井 博文 首藤 敬史
循環補助治療学	重症心不全患者に対する循環補助療法を習得する。	宮本 伸二 穴井 博文 首藤 敬史
脳循環代謝・神経外傷病態	脳虚血・神経外傷の病態解明と新しい治療法の開発。	藤木 稔
機能性精神病の生物・心理・社会学	うつ病や双極性障害の病態生理や症状、経過、予後、治療を多角的に検討する。	平川 博文 河野健太郎 室長 祐彰

授業科目	授業科目の概要	担当教員
高齢者のメンタルヘルス	認知症をはじめとする高齢者の精神疾患の病態生理や症状、経過、予後、治療を総合的に検討する。	不開講
発生・発達小児科学	新生児、乳児期早期の General Movements 評価を实践する。早産児の自律神経機能と自発運動の発達変化の関連を検討する。	前田 知己
臨床遺伝学	小児期・周産期に関わる臨床遺伝学を学習する。	井原 健二 井上 真紀
発達アレルギー学	小児アレルギー疾患の年齢による自然改善 (outgrow) を免疫学、栄養学、環境医学、遺伝学の観点から検討し、成人期への持ち越しを予防する方法について考察する。	脇口 宏之
眼科学・病態と治療	視覚障害を生ずる疾患の病態を最新の手法で把握し、その治療を手術療法を含めて研究する。	武田 篤信
視機能の科学	心理物理学的検査の理解と他覚的検査の実施、研究。	横山 勝彦
気道粘膜免疫学	耳・鼻を中心とした上気道における粘膜免疫機構とそれを応用した中耳炎・副鼻腔炎のワクチン治療。	平野 隆 渡辺 哲生 川野 利明
創傷診断治療学	創傷治癒に関する知識を得て、その診断、治療に関する考え方を学び、新しいアイデアを生む訓練をする。	波多野 豊 清水 史明 後藤 瑞生
皮膚疾患病態学	最新の研究を、方法論の限界や質問を考えながらレビューし、皮膚疾患の病態を病理組織レベル、及び分子レベルで解説する。批判力を養い、研究の歴史、関連領域も含めて幅の広い学識を得ることも目標とする。	波多野 豊 後藤 瑞生 酒井 貴史 広瀬 晴奈
過大侵襲と酸化ストレス	生体に手術などの過大侵襲が加わると、全身性炎症反応が誘導される。これに伴い活性化された好中球からは活性酸素種が過剰に放出され、いわゆる酸化ストレスが生じ、全身性に血管内皮細胞が傷害される。酸化ストレスが制御できなければ、結果として、多臓器不全へと至り、予後に大きく影響する。よって、周術期管理医学領域では、過大侵襲後の炎症反応だけでなく、酸化ストレスの制御も重要な研究テーマとなっている。	松本 重清 新宮 千尋 内野 哲哉
急性炎症と臓器障害	敗血症、多発外傷などの高度侵襲時に、本来は防御機構として生じる炎症反応が過剰となることにより、自己組織が損傷され、多臓器傷害が誘導される。本科目では炎症性メディエータと臓器傷害の関連を解明し、新たな治療法を確立することを目的とする。	小山 淑正 大地 嘉史
運動器画像診断学	運動器疾患における画像診断の読影法やポイントについて臨床症例より学習する。	加来 信広 宮崎 正志
運動器疾患治療学	主に外科的治療が必要な運動器疾患について外科的治療法の計画について臨床例を基に学習する。	加来 信広 宮崎 正志 河野 正典
外科臨床診断治療学	消化器外科疾患に対する術前診断、術式選択、摘出標本の観察・診断、および術後症例検討を行い、科学的な臨床判断力を養い、総合的な臨床能力を身に着けることを目的とする。	猪股 雅史 衛藤 剛 白下 英史
外科分子腫瘍学	腫瘍の増殖・発育・進展および細胞内シグナリングのメカニズムを学習し、各種癌細胞株や動物モデルを用いて、遺伝子およびタンパクレベルの解析を行い、その解明を目的とする。	猪股 雅史 衛藤 剛 上田 貴威 遠藤 裕一

授業科目	授業科目の概要	担当教員
排尿機能病態学	下部尿路機能障害の病態生理学的特徴に基づいた診断と治療。	秦 聡孝 安藤 忠助 井上 享 羽田 真郎
生殖・周産期病態学	卵胞発育・排卵・受精・着床・妊娠維持における生殖現象の生理ならびに妊孕性を妨げる病態について学ぶ。	小林 栄仁 河野 康志 西田 正和 甲斐健太郎
総合画像診断学	CT、血管造影、核医学、超音波診断学、磁気共鳴診断学を包括した総合画像診断学を、病理学、解剖学、遺伝子異常、臨床像と対比させて教授する。	浅山 良樹 本郷 哲央
低侵襲治療学	非手術的に低侵襲治療を行なう放射線治療学と Interventional Radiology (IVR) を包括する。遺伝子多型の検索も含めた臨床腫瘍学、血管内治療新技術の開発研究方法等も教授する。	浅山 良樹 本郷 哲央
救命救急医学	救命救急医療・集中治療を要する重症病態、特に敗血症の病態解明と診断・治療の確立を目指す基礎研究/臨床研究を行う。また、臓器不全に対する有効な人工補助療法の開発/確立、より有効な救急医療を実現するための機器開発/システム構築、に関する研究を行う。	安部 隆三
脳卒中・神経救急医学	脳卒中をはじめとした脳疾患および神経疾患の救急医療に関する最新の診断・治療を未来の展望も含め習得・研究する。	不開講
薬物治療解析学	適正な薬物治療の基礎となる薬効評価学、臨床薬理遺伝学を習得する。	上村 尚人 甲斐 恵 濡木 真一 和久田浩一
病態薬理遺伝制御学	薬物の体内動態を研究する方法を学び、薬物治療モニタリングが実施可能となる。	上村 尚人 甲斐 恵 濡木 真一 和久田浩一
創薬育薬医療コミュニケーション	医療コミュニケーション能力と倫理感の優れた創薬育薬医療スタッフを育成し、「臨床研究の論理と倫理」を身につけるための科目である。	不開講
摂食・嚥下機能	前癌病変からの発癌、癌の転移とその因子、口腔粘膜癌における化学療法の治療効果予測、顔面形態と咀嚼機能、顎顔面先天異常発生に関与する遺伝子異常、口唇・口蓋裂児の顎顔面発育、口腔病変と病態生理。	不開講
硬組織	顎骨の再建、骨髄幹細胞の分化誘導と骨・軟骨の再生、口腔インプラントの維持と機能。	不開講
医薬品適正使用	科学的根拠に基づいた総合的な薬物療法を実施できる能力を身に付けることを目標とする。	伊東 弘樹 田中 遼大
地域医療・総合診療医学	地域で生活する慢性疾患を有する患者が、安定な病状を維持し、健康に社会生活を送れる要因、一方、増悪により生活の質を低下させる因子を明らかにするために、疾患の経過と社会的・精神的・免疫学的背景の関連について研究する。	塩田 星児

【がん研究領域】

授業科目	授業科目の概要	担当教員
がん分子標的薬開発	がんの臨床および基礎研究の両面の知識を持った人材を育成することが本コースのねらいである。	緒方 正男 大津 智 泥谷 直樹 高野久仁子 戸高 明子
がんの診断病理学	がんの肉眼的、組織学的特徴を理解し、がんの病理診断に必要な免疫組織化学的手法および遺伝子診断法の習得を目的とする。	駄阿 勉 泥谷 直樹 西田 陽登
呼吸器外科腫瘍学	呼吸器領域の悪性腫瘍の発生と増殖メカニズムについて、分子レベルで理解し、トランスレーショナルリサーチと臨床試験から得られたエビデンスに基づいた治療体系を習得する。	小副川 敦 安部 美幸
内視鏡外科治療学	内視鏡外科の理論の理解と技術の開発、また生体侵襲や全身・局所への免疫性、腫瘍の発育浸潤に与える影響を、基礎的・臨床的観点から明らかにすることを目的とする。	猪股 雅史 白下 英史 二宮 繁生 遠藤 裕一
がん放射線治療学	各種疾患に対する通常の外部照射法や、定位放射線治療、強度変調放射線治療、密封小線源治療などの適応・方法・効果・副作用を教授し、がん治療における放射線治療の意義を学ぶ。	浅山 良樹 本郷 哲央
がん薬物療法学	がん薬物療法の選択法、支持療法、効果判定法などを習得する。薬剤の薬理、がん臨床研究の方法論を理解し、標準的薬物療法の開発および新規抗がん剤や分子標的薬剤、がん免疫療法臨床開発の方法論を学ぶ。	緒方 正男 大津 智 高野久仁子 戸高 明子
緩和医療学	がん性痛の機構を理解し科学的診断法、薬物療法、神経ブロック療法などの多角的治療法の理論的背景を理解し実施方法を身につけることを目的とする。	不開講
呼吸器腫瘍診断治療学	呼吸器腫瘍に対してエビデンスに基づいた標準的治療を適切に行う能力、エビデンスを構築するための基礎的・臨床的研究の意義を理解し、それを遂行する能力や臨床的問題への解決・判断能力を養う。同時にがん薬物療法専門医の取得を目指す。	平松 和史 小宮 幸作
消化器腫瘍診断治療学	消化器腫瘍の診断・治療法の最近の進歩および早期診断・最新治療の導入により、癌患者のQOL向上の可能性について学ぶ。	兒玉 雅明 水上 一弘 遠藤 美月 平下 有香
腎尿路生殖器腫瘍診断治療学	腎尿路生殖器腫瘍の細胞・分子生物学的特徴に基づいた診断と治療。	秦 聡孝 安藤 忠助 井上 享 羽田 真郎
婦人科腫瘍診断治療学	婦人科領域の腫瘍における病因・病態について学ぶ。	小林 栄仁 西田 正和 甲斐健太郎
乳腺腫瘍診断治療学	乳癌の発生と増殖メカニズムについて、分子レベルで理解し、トランスレーショナルリサーチと臨床試験から得られたエビデンスに基づいた治療体系を習得する。	小副川 敦 内匠 陽平
中枢神経腫瘍診断治療学	中枢神経腫瘍を形態・脳機能・分子生物学的に総合診断する。	藤木 稔

授業科目	授業科目の概要	担当教員
皮膚腫瘍診断治療学	皮膚腫瘍の病態を病理組織レベル・及び分子レベルで理解し、診断、治療法について学習する。	波多野 豊 清水 史明 後藤 瑞生 酒井 貴史
骨軟部腫瘍診断治療学	骨および軟部に発生する腫瘍（特に肉腫）について、発がんの分子機構を理解し、診断と治療を学習する。	加来 信広 田仲 和宏 糸永 一朗 河野 正典
頭頸部腫瘍診断治療学	頭頸部は多様な機能を持つ臓器が隣接し、この領域に発生した腫瘍による症状・所見はそれぞれ特徴がある。本講義では頭頸部の臓器に発生する腫瘍の制御と機能の維持に関する基礎的・臨床的な課題について学ぶ。	平野 隆 河野 憲司
小児血液・腫瘍学	本授業において小児期の血液悪性疾患、固形がんの発生と基礎的病態、治療の原則、長期フォローアップの概念を理解する。	不開講
地域・在宅医療学	がん医療に関する高い知識・技能を身につけ、地域病院において他診療科医師と協働して病院全体のがん医療の質を向上させ、地域におけるがん在宅医療を他職種とともに実施できる能力を身につけることを目的とする。	不開講
臨床腫瘍治療学	臨床腫瘍学に関する深い知識を習得し、外科的治療、放射線治療、薬物治療、緩和ケア等に関する高い技能・態度を身につけ、安全ながん診療をチーム医療として提供できるため、専門診療科に属して実技演習を行う。	不開講

#### 【理学療法研究領域】

授業科目	授業科目の概要	担当教員
理学療法基礎科学	本科目では、理学療法の臨床を支える基礎科学の最先端を学ぶ。廃用症候群やリンパの鬱滞による機能障害、脳虚血による神経機能の障害の病態に加え、ブレインマシンインターフェースやAIなどの工学的技術による補完までカバーする。	徳丸 治 河上 敬介 紀 瑞成 菅田 陽怜 大塚章太郎
神経・運動器連関理学療法学	本演習では、神経科学およびバイオメカニクスそれぞれの知識、技術だけでなく、これらの連関機構を明らかにできる臨床能力および研究能力を有する理学療法士および理学療法に関わる研究者を育成する。	徳丸 治 河上 敬介 朝井 政治 紀 瑞成 阿南 雅也 菅田 陽怜 萬井 太規 大塚章太郎

## 5. 履修方法

(1) 本研究科博士課程の修業年限は4年間で、その間に30単位以上を修得し学位論文の作成及び最終試験に合格することにより、修了することになります。

(2) 修得すべき30単位以上の内訳は次に示すとおりです。

全領域共通の選択必修科目の中から1科目5単位、所属する領域の授業科目の中から1科目5単位、また、他領域を含めた全ての授業科目の中から1科目5単位以上を履修し、合計15単位を修得します。

更に、テーマを決めた学位論文作成に至る「特別課題研究」として5単位を修得し、学位論文に係る「基礎臨床研究実習」として10単位を修得します。

## 6. 学位の授与

(1) 博士（医学）の学位を授与します。

(2) 学位は、大学院に4年以上在学し、授業科目について30単位以上を修得し、かつ、博士論文の審査及び最終試験に合格した者に授与します。

ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、大学院に3年以上在学した大学院学生についても授与することがあります。

## 7. 奨学金制度

日本学生支援機構の奨学金制度があり、本人の申請により貸与が認められた場合の貸与月額は、次のとおりです。

大学院第一種奨学金（無利子）	月額 80,000 円又は122,000 円
大学院第二種奨学金（有利子）	月額 50,000 円・80,000 円・100,000 円・130,000 円・150,000 円 から選択

## 8. 育児支援サービス補助事業

育児と学業との両立を支援することを目的とし、育児支援サービスを利用する際の料金の一部を大学が負担する事業があります。詳細については、男女共同参画推進室（TEL 097-554-8573、E-mail fsupport@oita-u.ac.jp）までお問い合わせください。

## 9. 学生教育研究災害傷害保険

この保険は、大学院在学中の実験・実習等の正課、学校行事又は課外活動中及び通学中に不慮の事故により被った負傷、死亡等の災害に対する補償制度であり、保険料は4年間分で3,370 円です。

なお、加入方法等については、合格後にお知らせします。

## 10. 長期履修制度について

この制度では、標準修業年限を超えて計画的に授業科目を履修し修了することにより学位を取得することができます。長期履修制度を利用できる対象者は、有職者及び正規の履修期間内で修学が困難な事情がある者（家事、育児及び介護など）です。

この制度の利用は原則として入学時の申請により認められます。また、修学状況等の変動により、申請した修業年限を短縮することも可能です。

長期履修学生として認められた場合の授業料は、下記の「授業料の納入例」を参照して下さい。

また、入学後履修期間を延長する場合、授業料総額に追加的費用が発生します。

なお、申請方法等については、合格後にお知らせします。



【授業料の納入例】（年度により変更がないと仮定した場合）

標準修業年限（4年）、授業料年額535,800円

1年次 535,800円	2年次 535,800円	3年次 535,800円	4年次 535,800円
-----------------	-----------------	-----------------	-----------------

2,143,200円

入学時に申請し、8年の長期履修学生として認められた場合の授業料年額

1年目 267,900円	2年目 267,900円	3年目 267,900円	4年目 267,900円	5年目 267,900円	6年目 267,900円	7年目 267,900円	8年目 267,900円
-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------

2,143,200円÷8年＝267,900円（1年間の授業料）

# 11. 指導教員（教授等）の連絡先一覧（令和7年（2025年）5月現在）

教員名	内線番号	FAX 番号	E-mail	専門研究分野
あき おか ひで ふみ 秋 岡 秀 文	6166	097-586-6166	akioka0920	たけた循環器病学
あさ い まさ はる 朝 井 政 治	554-7551	097-554-7551	ma-asai	内部障害系理学療法学 地域理学療法学
あさ やま よし き 浅 山 良 樹	5934	097-586-0025	asayama	放射線医学
あな い ひろ ふみ 穴 井 博 文	5138	097-586-5146	anaiana	医工連携、人工臓器と機 械的循環補助、心臓血管 外科領域
あ べ りゅう ぞう 安 部 隆 三	6602	097-586-6600	ryuzoabe	救急医学、集中治療医学
あん どう ただ すけ 安 藤 忠 助	5893	097-586-5899	chyusuke	腎移植、血液浄化療法
いし ざき とし まさ 石 崎 敏 理	5722	097-586-5729	t-ishizaki	細胞生物学および 創薬に関する領域
い どう ひろ き 伊 東 弘 樹	6100	097-586-6119	itoh	薬物動態領域
いの また まさ ふみ 猪 股 雅 史	5840	097-586-5962	inomata	消化器外科学・ 小児外科学
い はら けん じ 井 原 健 二	5830	097-586-5839	k-ihara	小児科学
いま い ひろ みつ 今 井 浩 光	5600	097-586-5619	imaih	医療倫理学
うえ だ よし たけ 上 田 貴 威	6308	097-586-5624	yoshimd	総合外科・地域連携学
うえ むら なお と 上 村 尚 人	5950	097-549-6044	uemura	臨床薬理学
え とう つよし 衛 藤 剛	5409	097-586-5409	teto	消化器外科学 ウイルス応用治療工学
お がた まさ お 緒 方 正 男	6275	097-586-6276	mogata	腫瘍・血液内科学
お そ え が わ あつし 小 副 川 敦	5853	097-586-6449	osoegawa-ths	呼吸器・乳腺外科学
か く のぶ ひろ 加 来 信 広	5872	097-586-6647	nobuhiro	整形外科
かわ かみ けい すけ 河 上 敬 介	554-7735	097-554-6124	kkawakami	基礎理学療法学
かわ の けん じ 河 野 憲 司	6703	097-549-2838	kekawano	歯科口腔外科学
かわ の やす し 河 野 康 志	5921	097-586-6687	kawayas	産科婦人科学
き むら のり ゆき 木 村 成 志	5814	097-586-5814	noriyuki	脳神経内科学
こう もと さと し 河 本 聡 志	5455	097-586-5455	satoshik	ウイルス学
こ みや こう さく 小 宮 幸 作	5801	097-549-4245	komiyakh1	呼吸器・感染症内科学
こ だま まさ あき 兒 玉 雅 明	5194	097-586-6194	kodm	消化器内科学
こ ばやし えい じ 小 林 栄 仁	5922	097-586-6687	ekobayashi	産科婦人科学
こ ばやし たか し 小 林 隆 志	5702	097-586-5197	takashik	寄生虫学・免疫学
さい とう いきお 斉 藤 功	5730	097-586-5739	saitoi	公衆衛生・疫学

教員名	内線番号	FAX 番号	E-mail	専門研究分野
しば た ひろ たか 柴 田 洋 孝	5793	097-549-4480	hiro-405	内分泌代謝・膠原病・ 腎臓内科学
しろ した ひで ふみ 白 下 英 史	5843	097-596-5962	hshiro	消化器外科学
しん とし たか 秦 聡 孝	5893	097-586-5899	shintosh	腎泌尿器外科学
たか はし なお ひこ 高 橋 尚 彦	6037	097-586-6166	takanao	循環器内科・ 臨床検査診断学
たけ だ あつ のぶ 武 田 篤 信	5904	097-549-6043	atsutakeda	眼科学
た なか かず ひろ 田 仲 和 宏	5872	097-586-6647	tanaka	整形外科・骨軟部腫瘍学
たに がわ まさ と 谷 川 雅 人	5603	097-586-5619	tanigawa	生物物理学
だ あ つとむ 駄 阿 勉	6098	097-586-6098	daatom	診断病理学
て しま やす し 手 嶋 泰 之	5192	097-586-6166	teshima	心臓病学・臨床検査医学
とく まる おきむ 徳 丸 治	554-7972	097-554-7972	ostokuma	生理学
は た の ゆたか 波 多 野 豊	5882	097-586-5889	hatano	皮膚科学
はな だ とし かつ 花 田 俊 勝	5662	097-586-5665	thanada	疾患生物学
はな だ れい こ 花 田 礼 子	5642	097-586-5649	reiko-hanada	神経生理学
はま だ ふみ ひこ 濱 田 文 彦	5620	097-586-5623	hamadaf1	解剖学・細胞生物学
ひら の たかし 平 野 隆	5913	097-586-5913	thirano	耳鼻咽喉科学
ひら まつ かず ふみ 平 松 和 史	5406	097-586-5419	hiramats	医療安全管理医学
ふじ き みのる 藤 木 稔	5860	097-586-5869	fujiki	脳神経外科学
まつ うら けい こ 松 浦 恵 子	5608	097-586-5619	matsuura	人間生命医科学
み むろ ひと み 三 室 仁 美	5630	097-586-5437	mimuro	細菌感染生物学
みや もと しん じ 宮 本 伸 二	6730	097-586-6739	smiyamot	心臓血管外科学
もり しん じ ろう 森 晋 二 郎	5751	097-586-5754	gzzz91vgwxs	法医学
やま おか よし お 山 岡 吉 生	5740	097-586-5749	yyamaoka	環境・予防医学
やま もと きよう こ 山 本 恭 子	6761	097-586-5593	kyoko- yamamoto	医学教育・総合診療
わき ぐち ひろ ゆき 脇 口 宏 之	5833	097-586-5839	wakiguchi	大分こども急性救急疾患 学
い は ひで かつ 伊 波 英 克	6224	097-586-5719	hiha	腫瘍ウイルス学
くろ かわ たつ き 黒 川 竜 紀	5651	097-586-6646	tkurokawa	病態生理学
しも だ けい 下 田 恵	5606	097-586-5619	shimoda	医化学
ち ば せい いち 千 葉 政 一	5623	097-586-5623	schiba	解剖学
ひじ や なお き 泥 谷 直 樹	5693	097-586-5699	hijiya	分子病理学

教員名	内線番号	FAX 番号	E-mail	専門研究分野
前 田 知 己 <small>まえ だ とも き</small>	5833	097-586-5839	tmaeda	小児科学
松 尾 哲 孝 <small>まつ お のり たか</small>	5672	097-586-5674	matsuon	マトリックス医学
松 本 重 清 <small>まつ もと しげ きよ</small>	5943	097-586-5943	sigekiyo	麻酔科学
渡 邊 哲 生 <small>わた なべ てつ お</small>	5913	097-586-5913	twatanab	耳鼻咽喉科学

- (注) 1. 出願を希望する者は、あらかじめ志望する指導教員と相談の上出願してください。
2. 本学はダイヤルイン方式になっています。したがって、市外から電話をする場合は市外局番（097）及び局番（586）の後に内線番号をダイヤルすれば、担当教員と直接通話ができます。
3. E-mail は、ドメイン名以下（@oita-u.ac.jp）を省略して表示しています。

# 大分大学位置図

## 大分大学大学院医学系研究科（挾間キャンパス） ※試験会場

所在地 〒879-5593 由布市挾間町医大ケ丘1丁目1番地

T E L 097-586-5540、5541

交通アクセス 〈バス利用〉

大分バス 〔中央通り②のりば（トキハデパート前）〕又はJR大分駅府内中央口（北口）〔大分駅前5番のりば〕から「大学病院」行き又は「大学病院」経由を利用（約40分）、「大学病院」下車（詳細は時刻表で確認してください。）

## 大分大学学生支援部入試課（旦野原キャンパス） ※入学志願書提出及び入学手続先

所在地 〒870-1192 大分市大字旦野原700番地

T E L 097-554-7006

交通アクセス 〈JR利用〉

JR豊肥本線「大分大学前駅」下車（大分駅より約15分）、徒歩約10分  
〈バス利用〉

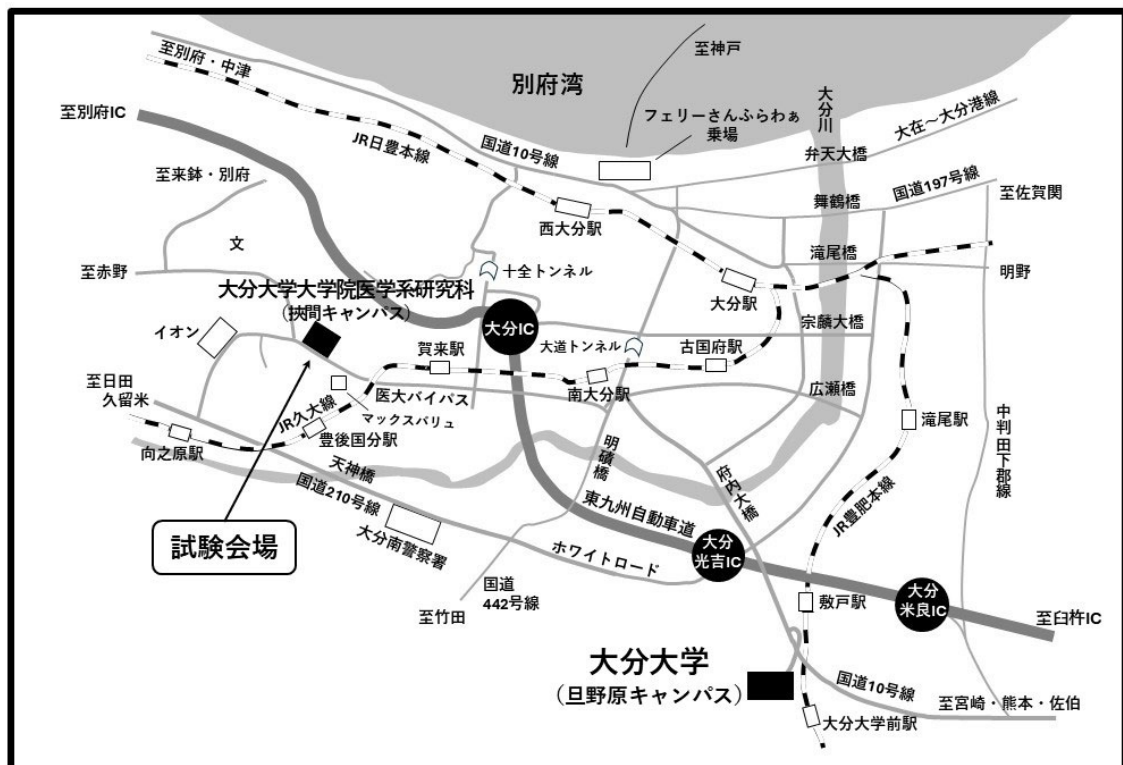
大分バス 中央通り〔1番のりば〕又はJR大分駅府内中央口（北口）〔大分駅前3番又は4番のりば〕から

○「大南団地（高江ニュータウン）」行きを利用（約40分）、「大分大学」

又は「大分大学正門」下車

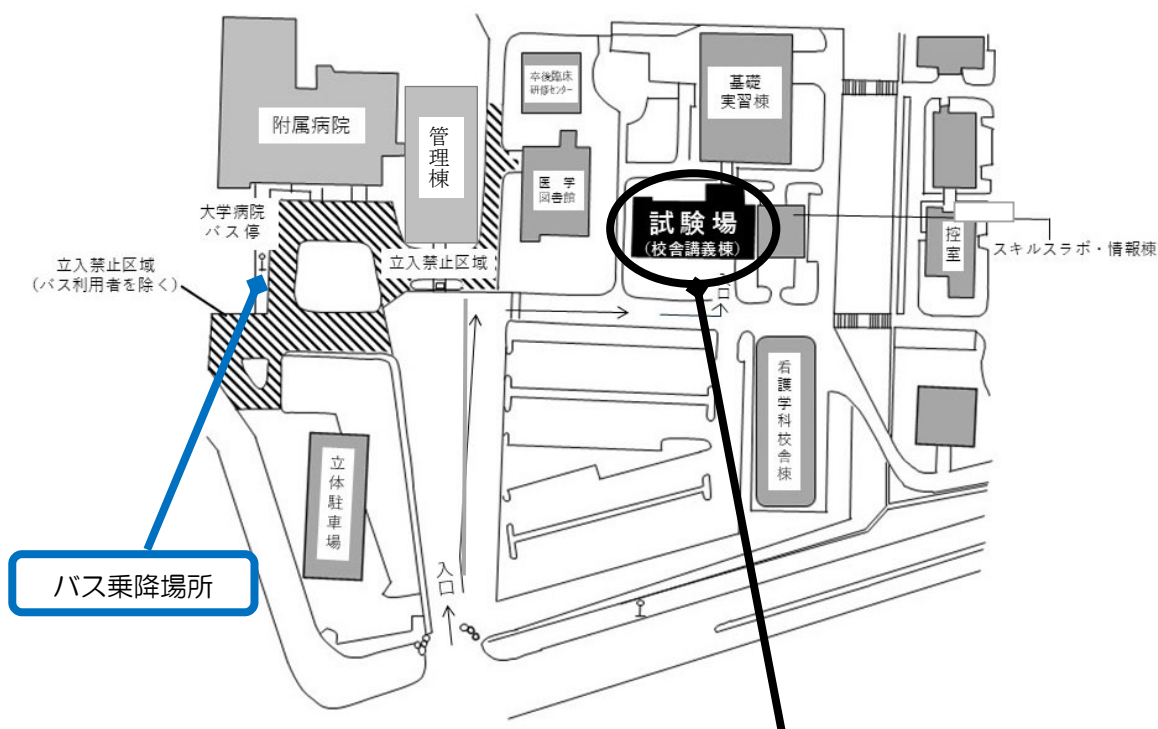
○「戸次、臼杵、佐伯」行きを利用（約40分）、「大分大学入口」下車、徒歩約10分

（詳細は時刻表で確認してください。）



## 医学系研究科博士課程試験場案内

(大分大学医学部 狭間キャンパス建物案内図)



### 【秋季入学、第1次募集】

集合日時：令和7年（2025年）7月16日（水）9時30分

集合場所：校舎講義棟2階 201講義室

### 【第2次募集】

集合日時：令和8年（2026年）1月22日（木）9時30分

集合場所：校舎講義棟2階 201講義室

### 【第3次募集】

集合日時：令和8年（2026年）3月6日（金）9時30分

集合場所：校舎講義棟2階 201講義室

※「筆記試験」終了後の「口述試験」は、入学志願書に記載した第1志望の研究指導教員により研究室等で行われますので、あらかじめ連絡を取り、試験時間等を確認しておいてください。

# Admission Policy (AP) of Oita University Graduate School of Medicine

## Basic Philosophy

In an era where complex and sophisticated changes are constantly being made in the medical fields, our goal is to support the aspiration of every medical professional who wishes to continue their education, in order to keep themselves up-to-date on the current techniques and ethical standards, as they continue to promote health and welfare in the local and international communities.

## Educational and Research Goals

### Doctoral Program

The Oita University Graduate School of Medicine aims to foster its personnel with a rich sense of humanity and broad knowledge, which in turn will develop them into becoming excellent educators and researchers who are able to excel in international communities, as well as doctors who both have ethical and clinical expertise.

## Suitable Candidates

### Doctoral Program

We invite students who are capable of fulfilling these qualifications as follows:

1. those who aim to work in medicine in the international community.
2. those who have the capacity of assimilating the advanced knowledge, addressing novel scientific questions aimed at generating new hypotheses, and conducting comprehensive research in various fields of medicine including basic medicine, clinical medicine and social medicine.
3. those who wish to be researchers with competence to publish their results in top rated journals and to accept constructive criticism from peers in the international community.
4. those who aim to contribute to the advancement of medical science to maintain and improve public health.
5. those who aspire to be cancer experts participating in clinical, research, and education services of oncology practice that is attracted great attention nationwide.

## Selection Process of Successful Applicants

### Doctoral Program

The University will select students who can fulfil all the criteria listed above, as well as those who are technically able to perform laboratory procedures and research. Preferences will be given to those who have a high regard for ethics, and can work in an international and multidisciplinary environment. Based on our AP, successful applicants for admission to the Oita University Graduate School of Medicine will be selected on the basis of overall evaluation of the results of “written and oral examinations.”

Perspectives emphasized in the examination

Entrance examination classification	Type of exam	Candidates to be selected				
		those who aim to work in medicine in the international community	those who aim to conduct self-directed research	those who are willing to accept evaluation or criticism	those who aim to maintain and improve global health and wellness	those who aim to become cancer experts with a high standard of education, research, and clinical practice
Doctoral course entrance examination	Written examination	◎	○	○	○	○
	Oral examination	○	◎	○	◎	○

○: Important

◎: Especially important



Oita University Graduate School of Medicine  
Diploma Policy (DP) in the Faculty of Medicine

[Graduate School of Medicine]

Upon completion of Oita University Graduate School of Medicine Doctoral Program, the Doctor of Philosophy (Ph. D. in Medicine) shall be awarded to candidates who have acquired academic and research skills necessary for an independent researcher or a medical specialist with a high degree of professionalism and who meet all of the criteria as follows:

1. those who have acquired a deep knowledge in basic and clinical medicine or life sciences with ability for data collection, analysis and interpretation.
2. those who are capable of finding and resolving tasks in their respective research fields or in clinical experience.
3. those who are capable of analyzing the research results objectively, making a presentation on research findings with the aim, background, methods, results, and discussion about the future direction of the research as well as publishing scientific research papers in reputable international scientific journals.
4. those who understand state-of-the-art medical technology and carry it out in clinical practice on a scientific basis.
5. those who possess high ethical standards based on practical experience in their research and clinical practice.
6. those who can contribute to the welfare and prosperity of humankind through their medical research.

Spring Admissions  
(April 2026)

## Student Entry Requirements

### 1. Admission Schedule

Type	First	Second	Third
Application Period	Friday, June 27, 2025～ Thursday, July 3, 2025	Monday, January 5, 2026～ Thursday, January 8, 2026	Monday, February 9, 2026～ Friday, February 13, 2026
Examination Date	Wednesday, July 16, 2025	Thursday, January 22, 2026	Friday, March 6, 2026
Announcement of Result	Wednesday, August 20, 2025	Friday, February 6, 2026	Monday, March 23, 2026

### 2. Number of Students Admitted      Medical Science:    30

(Including part-time students and Working Adult students)

Major	Field	Number of Students
Medical Science	Fundamental Research	30
	Clinical Research	
	Cancer Research	
	Physical Therapy Research	

(Remarks)

- Applicants must apply for their field of choice in order of preference. Up to two choices will be accepted.
- Working Adult Students are defined as those who work as doctors or researchers in a public office, hospital, company, etc. These students will continue to work in their professions once admitted to the university.

\* To ensure Working Adult Students have access to our Graduate School, we adhere to Article 14 of the Standards for the Establishment of Graduate School Law. Those who have been approved for special circumstances will discuss with the tutor regarding access to research facilities and tutors outside regular hours. Please refer to the Special Measures for Working Adult Student.

### 3. Application Requirements

Applicants must fulfill one of the following requirements by the end of March, 2026)

- Graduated from a university in Medicine or Dentistry or complete 6 years of study in Pharmacy (Pharmaceutical Sciences) or Veterinary Medicine.
- Completed 18 years of formal education in a foreign country, achieving a degree in Medicine, Dentistry, Pharmacy (Pharmaceutical Sciences) or Veterinary Medicine.
- Completed 18 years of education through distance learning with a foreign school while residing in Japan, achieving a degree in Medicine, Dentistry, Pharmacy (Pharmaceutical Sciences) or Veterinary medicine.
- Completed 18 years of formal education in a foreign country, and graduate from a foreign university in Medicine, Dentistry, Pharmacy (Pharmaceutical Sciences) or Veterinary Medicine. The university must be recognized by the Ministry of Education, Culture, Sport and Technology in Japan.
- Complete 16 years of formal education in a foreign country and study Medicine, Dentistry or complete 6 years of study in Pharmacy (Pharmaceutical Sciences) or Veterinary medicine for at least 4 years. Complete 16 years of study with a foreign school through distance education in Japan, achieving a degree in Medicine, Dentistry, Pharmacy (Pharmaceutical Sciences) or Veterinary Medicine. Complete 16 years of study with a foreign school through distance education in Japan hold a foreign university degree from a university in Japan or an educational institution approved by the Ministry of Education,

Culture, Sports, Science and Technology in Japan, and achieve excellent grades and receive credits from Oita University Graduate School.

- (6) Nominated by the Ministry of Education, Culture, Sport and Science and Technology.
- ① Graduated in Medicine or Dentistry from a Medical or Dentistry Faculty according to the Old University Order (Imperial Ordinance No. 388, 1918).
  - ② Graduated from the National Defense Medical College according to the Defense Agency Act (Act No. 164, 1954).
  - ③ Completed, or expect to complete by March 2026, a Japanese Master's degree.
  - ④ Complete at least 2 years of coursework at graduate school, acquired at least 30 credits and necessary research guidance (under the Ordinance to amend part of the degree rules of 1974 Ministry of Education Decree No. 29, or by prior degree regulations under the 1953 Ministry of Education Decree No. 9, including persons falling under article 6(1), no. 1.), and achieve the scholastic ability of a graduate in Medicine, Dentistry, Pharmacy (Pharmaceutical Sciences) or Veterinary Medicine.
  - ⑤ Graduate from a university (not in Medicine, Dentistry, Pharmacy (Pharmaceutical Sciences) or Veterinary Medicine) or graduate after completing 16 years of school education in a foreign country, and research Medicine for at least 2 years in a university or institute, etc. and achieve the scholastic ability of a graduate in Medicine, Dentistry, Pharmacy (Pharmaceutical Sciences) or Veterinary Medicine.
- (7) Working Adult Students of at least 24 years of age, who are deemed by Oita University to have the scholastic ability of a graduate in Medicine, Dentistry or complete 6 years of study in Pharmacy (Pharmaceutical Sciences) or Veterinary Medicine.

#### 4. Application Requirements Documentation

People applying under 3. Application Requirements (5), (6) ④, ⑤ or (7) must apply for preliminary eligibility screening and submit the following documents when requested.

##### (1) Documents Required

- ① Those applying under (5) are required to submit the following.

Documents Required	Brief Particulars
① Qualification Form	Use the designated form. Non-Japanese applicants are required to use the designated form for Non-Japanese applicants.
② Academic Transcripts	Head of School must have signed the documents.
③ School Registration Certificate (years of attendance must be shown) or Certificate of Completion	All documents must be in Japanese or English. Translated documents are required in Japanese or English for documents not originally in either language. *For Name changes due to marriage etc., proof of name change by supplying a family register is required.
④ Research Proposal	Use the designated form.

- ② Those applying under (6) ④, ⑤ or (7) are required to submit the following.

Documents Required	Brief Particulars
① Qualification Form	Use the designated form. Non-Japanese applicants are required to use the designated form for Non-Japanese applicants.
② Academic Transcripts	Head of School must have signed the documents. All documents must be in Japanese or English. Translated documents are required in Japanese or English for documents not originally in either language. *For Name changes due to marriage etc., proof of name change by supplying a family register is required.
③ Research Proposal	Use the designated form.
④ List of Achievements	Use the designated form. Use one box per achievement. Limit of three.

\* The prescribed form can be downloaded from the following URL.  
<https://www.oita-u.ac.jp/06nyushi/21daigakuin.html>

(2) Submission Period:

First Period: Monday, June 2– Must Arrive By 17:00, Friday, June 6, 2025  
Second Period: Tuesday, November 4– Must Arrive By 17:00, Friday, November 7, 2025  
Third Period: Monday, January 5–Must Arrive By 17:00, Thursday, January 8, 2026

(3) Submission Method: Send by Registered Express Post. The front of the envelope must have ‘Application Forms Enclosed’ written in red.

(4) Submission by Postal Mail: Entrance Examination Division, Students Affairs Department, Oita University  
700 Dannoharu, Oita City, 870-1192

(5) Results: Results of screening will be available to the applicant by ;

First Period: Monday, June 23, 2025  
Second Period: Friday, November 28, 2025  
Third Period: Friday, January 30, 2026

## 5. Application Procedures

(1) Period of Application:

First Period: Friday, June 27 – Must Arrive By 17:00, Thursday, July ,3 2025  
Second Period: Monday, January 5– Must Arrive By 17:00, Thursday January 8, 2026  
Third Period: Monday, February 9– Must Arrive By 17:00, Friday, February 13, 2026

(2) Application Procedure

- ① Applicants must apply for their field of choice in order of preference.
- ② **Applicants are required to discuss their research proposal with their choice of tutor (list available p.51–53) prior to application.**
- ③ All the required documents are to be submitted within the given period of time. Please ensure that you have all of the application documents listed below in order, and submit them by postal mail. Please make sure to use a Kaku 2 envelope (240mm x 332mm), an envelope in which you can put an A 4 sheet without folding it, and send. The affix the prescribed address label 「For sending application documents」 and send by registered express post to the below address.

(To) Entrance Examination Division , Students Affairs Department, Oita University 700  
Dannoharu, Oita City, 870-1192

(3) Documents Required (Documents will not be returned)

Documents Required	Brief Particulars
① Application for Admission	Use the designated form. Carefully read the instructions. Non-Japanese applicants are required to use the designated form for Non-Japanese applicants.
② Photograph Form/ Examination Slip	Use the designated form and attach your photograph with glue. Must be of head and upper body. No head coverings. Facing the front. Must be 4cm long × 3cm wide.

<p>③ Proof of Payment Form of Application Fee (30,000JPY)</p>	<p>Apply through the below homepage by entering your testing number. And then pay at a convenience store. After payment has been made, you will receive a proof of payment slip. This must be glued to the designated form.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Homepage from a computer ( <a href="http://www.oita-u.ac.jp/">http://www.oita-u.ac.jp/</a> ) Menu→<b>Admission Information</b>→<b>Appl. Fee Payment at Con. Store</b></li> <li>From a cell phone ( <a href="https://www.oita-u.net/mobile/">https://www.oita-u.net/mobile/</a> )</li> </ul> <p>*Some filtering services on cell phones may cause access to be denied. We apologize for the inconvenience.</p>  <p>*Handling fees are to be paid for by the applicant. *Application Fees are non-refundable under any circumstances. <b>*State sponsored International Exchange Students and students enrolled as of March 2026 in the Research Doctoral Course or in a Master's Course at Oita university, do not need to pay this Application Fee.</b></p>
<p>④ Academic Transcripts</p>	<p>Head of School must have signed the documents. All documents must be in Japanese or English. Translated documents are required in Japanese or English for documents not originally in either language. (If these were provided when the preliminary eligibility screening took place, they do not need to submitted)</p>
<p>⑤ Certificate of Graduation (or scheduled graduation) Or Certificate of Completion (or expected completion)</p>	<p>Head of School must have signed the documents. All documents must be in Japanese or English. Translated documents are required in Japanese or English for documents not originally in either language. (If these were provided when the preliminary eligibility screening took place, they do not need to submitted)</p>
<p>⑥ Consent to Sit Examination and Enroll</p>	<p>Use the designated form. <u>Required from applicants who will continue to work at their current employment while completing the course.</u> (for Working Adult applicants only)</p>
<p>⑦ Resident's card specifying residence status (for foreign applicants only)</p>	<p>For Non-Japanese residing in Japan. This is available at the village, town, ward or city office. Names on application forms must be written the same as they appear on this certificate.</p>
<p>⑧ Application qualification notice(copy)</p>	<p>Applicants who passed</p>
<p>⑨ Address Labels</p>	<p>Requires applicant's name, address and postal-code of location that the Notice of Acceptance should be sent to.</p>
<p>⑩ Envelope for return of Examination Slip</p>	<p>This type 3 envelope requires your name, address and postal-code and a 410JPY stamp attached.</p>
<p>⑪ Extract of a family register</p>	<p>Due to marriage etc., if your current name differs from names on your documents, you must supply a family register to prove the change.</p>

\* The prescribed form can be downloaded from the following URL.

<https://www.oita-u.ac.jp/06nyushi/21daigakuin.html>

#### (4) Instructions

- ① Be sure not to miss anything on the Application For Admission.
- ② Documents differ with Fall Admission (October 2025) or Spring Admission (April 2026). Be careful when selecting admission period.
- ③ Once a document has been admitted, it will be returned under any circumstances.
- ④ After the application period, no additional documents will be accepted.
- ⑤ Send all application forms and documents together.
- ⑥ If any discrepancies are found in applications and documents even after admission to study is granted permission to study will be void.

⑦ Information on Prior Consultation for Applicants with a Disability

To accommodate for disabilities the university requests Applicants with disabilities contact the university to arrange a Prior Consultation. When arranging a consultation, the applicant is required to present a Doctor's Certificate with Applicant Form for Special Consideration and the following information to the Entrance Examination Division, Student Affairs department of the university by;

First term: Monday, June 9, 2025

Second term: Thursday, November 13, 2025

Third term: Tuesday, January 13, 2026

- |   |  |   |
|---|--|---|
| { | • Type and degree of disability                | • Special needs at time of examination      |
|   | • Special needs while attending the university | • Details on daily needs and other comments |

⑧ Documents and personal information submitted by applicants will be protected by the Act on the Protection of Personal Information and the Independent Administrative Agency and the Privacy Policy of Oita University. Information will not be used for business operations, statistical processing etc., However, these documents will be used in the screening processes for scholarship applications and tuition waivers or delays.

⑨ Information regarding special considerations related to natural disasters (concerning application fee, etc.) shall be posted on the university website. (<https://www.oita-u.ac.jp/>)

## 6. Issue of Examination Slips

Once application forms and documents have been processed, Examination Slips will be sent to applicant.

If an applicant does not receive the Examination Slip by the day before the examination date, or the examination Slip is lost, the applicant must come to the examination hall of the examination with the another copy of the application photograph.

## 7. Selection Process of Successful Applicants

(1) The selection of successful applicants will include the consideration of the written and oral examinations and the academic transcripts submitted with the application.

Date, Type and Time of Examination

Date	Examination Subject	Time	Remarks
First term: Wednesday, July 16, 2025	English (Written Examination)	10:00~12:00	English dictionaries are permitted (except electronic dictionaries and medical term dictionaries)
Second term: Thursday, January 22, 2026			
Third term: Friday, March 6, 2026	Oral Examination (Based on applicants requested study field)	From 13:00	

\*Applicants arriving late will only be able to sit the examination if they arrive within 20 minutes from the start of the examination.

\*Applicants who cannot visit Japan to take on-campus entrance examinations may be offered the opportunity for an online examination only when they consult their prospective advising professor in advance and obtain permission from the Graduate School.

(2) Examination Location

Graduate School of Medicine, Oita University: Hasama Campus

Location: 1 - 1 Idaigaoka, Hasama-machi, Yufu City (See map on p.54)

Access: \*By bus (Oita Bus)

From Bus Stop 2 in front of the 'Tokiwa Department Store', at Oita Bus Co., take a bus to 'Daigaku Byoin'.

From Bus Stop 4 in front of JR Oita Station Funai Chuo Exit (North exit), take a bus to

‘Daigaku Byoin’.  
It is about a 40 minute ride

## 8. Announcement of Results

First term: 10:00 Wednesday, August 20, 2025

Second term: 10:00 Friday, February 6, 2026

Third term: 10:00 Monday, March 23, 2026

Notice of Acceptance will also be sent by post.

Application numbers of Successful Applicants will appear on the Oita university (homepage at <http://www.oita-u.ac.jp/>).

Telephone enquires will not be accepted regarding the Announcement of Result.

## 9. Enrollment Procedures

Details on Enrollment Procedures will be sent to successful applicants along with the Notice of Acceptance. Failure to complete the Enrollment Procedures on the date above will be considered refusal to enroll.

## 10. Enrollment Fees and Tuition Fees

Enrollment Fee: 282,000 JPY

Tuition Fees(Annual): 535,800 JPY (First Installment 267,900 JPY Second Installment 267,900 JPY)

- \*1 The payment of Enrollment Fees is required. However, exceptions to Tuition Fee payment may be considered. For further information, contact the Support Group, Student Assistance Division at 097-554-7386.
- \*2 Enrollment Fee or Tuition Fees may be revised. If this occurs students will be required to pay the revised Fees.
- \*3 Refunds of Enrollment Fees can not be made.
- \*4 When paying the First Installment of Tuition Fees, the Second Installment can also be paid.
- \*5 State Sponsored International Exchange Students are not responsible for Enrollment Fee or Tuition Fee payments.**
- \*6 Students enrolled in the Research Doctoral Course in a Master’s Course at Oita university as of March 2026, do not need to pay this enrollment Fee.**

## 11. University Contact Information:

Entrance Examination Division, Student Affairs Department, Oita University  
700 Dannoharu, Oita City, 870-1192  
TEL 097-554-7006



## General Information on Application

## Admission Information

### 1. Goal of Education

The Doctoral Course at the Graduate School of Medicine of this university aims to use the latest academic teaching and research to nurture and educate researchers and medical professionals. This contributes to the welfare of the local and international communities and, the promotion of public health through human resources training.

### 2. Framework and Term of Study

The Medical Major consists of four related fields of study available to students. These are Basic Research, Clinical Research, Cancer Research and Physical Therapy Research. The standard term of study is four years.

### 3. Features

#### (1) Research Field Framework and Faculty Organization

Research will be available in the Faculty of Medicine and we will rid the traditional division between Basic Research and Clinical Research fields.

In doing this, broader perspectives are available for research activities throughout the Graduate School Course from communication between tutors and people including areas of natural science and social science.

Furthermore, the framework for the Cancer Research field will include cancer components of the other fields and will encourage students to be knowledgeable in the social requirements of the community.

The Physical Therapy Research field was established in 2021 to educate graduate students majoring physical therapy-related sciences covering basic and clinical medicine. Graduates will be expected to lead rehabilitation and health promotion in academia and community.

#### (2) Multiple Mentors

Due to the rapid changes, specialization, and expertise in medicine, it is necessary for graduate students to have multiple mentors who may offer advice, support, and encouragement not only for the academic experience and professional career but also in the postgraduate education, research and dissertation process. Thus, graduate students have an opportunity to engage in research, to be mentored by multiple faculty members in different departments regardless of basic or clinical medicine.

#### 4. Courses and Faculty Members (As of May 2025)

##### **【Common Courses for all fields - One must be selected】**

Subject	Details of Subject	Faculty Member
Practice & progress on research	<p>(Practical Seminar) This seminar covers essential medical research techniques, including basic theory of common methodology and procedures in experiments.</p> <p>(Graduate School Seminar) The aim of this seminar, based on the expertise of Professors and Associate Professors, is to improve students' research skills. Sessions are held throughout the school year and are also suitable for working students.</p> <p>(Local Medical Practical) Working students who are already involved in the local medical system can plan a Local Medical Practical. Along with the other seminars, cases and experience in medical practice, participants can expand on their knowledge with practice in the local community. In some cases, presentations and reports on work done at community health care sites will be accepted in lieu of lecture participation.</p>	All Teachers
Medical English	The purpose of the course is to improve students' English academic reading and writing skills through the study of medical research papers.	Shigeru Mori Harumi Oshita
Medical English Conversation	The purpose of the course is to improve students' English speaking and listening skills for oral presentations at medical conferences.	Shigeru Mori Sean Chidlow
Bioethics	This course will provide an overview of the history and current state of clinical and research ethics. Subsequently, students will be asked to think and discuss about various ethical problems.	Hiromitsu Imai
Biostatistics	In this course, the following topics are introduced: (i) common types of biomedical studies; (ii) descriptive statistical methods; (iii) sampling distributions; (iv) parameter estimation and tests of hypotheses; (v) regression analysis and experimental designs; (vi) mathematical epidemic models. Examples of practical data analyses are also provided.	
Medical Informatics	The purpose is to understand the integrated hospital information system of the university hospital, and to get the knowledge and the method to construct the research database from the electronic medical records.	Tsuyoshi Shimomura Yasuaki Antoku

##### **【Fundamental Research Field】**

Subject	Details of Subject	Faculty Member
Psychological and Behavioral Science of Stress and Health	In this course, we multilaterally discuss and study the problems of stress and health in modern society from the standpoint of psychology, sociology and public health. We expect graduate students to learn psychosocial approaches to the problems of stress and health.	
Histopathology	The aim of this course is to gain the knowledges and skills of diagnostic pathology as well as to discipline skills of presentation at clinicopathologic conference on autopsy cases.	Tsutomu Daa Haruto Nishida
Analysis of genomic aberrations in cancer	Aim of this course is to study the molecular mechanisms of the onset and advancement of carcinomas by the genome wide analysis of cancer genome.	Keiko Matsuura Naoki Hijiya Yoshiyuki Tsukamoto

Subject	Details of Subject	Faculty Member
Pathophysiology of Ionic Channels	Molecular function and pathophysiological regulation of ion channels would be targeted.	
Molecular Neuroscience	This class aims to understand the molecular mechanisms and neuronal pathways for investigating the novel physiological functions of biological substances in the central nervous systems.	Reiko Hanada Tatsuki Kurokawa
Molecular Biology of Cancer	The aim of the course is to understand the molecular and cellular mechanisms underlying cancer formation.	Fumihiko Hamada
Lymphology of Cancer	The aim of the course is to understand the mechanism of lymphatic metastasis and peritoneal dissemination of cancer.	Fumihiko Hamada Masahiro Miura
The molecular morphology	The analysis of gap junction formation bearing intercellular communication using an HAM8 monoclonal antibody.	
Tissue morphofunctional studies	We established the statistical analysis of the in Situ expression of the bio-proteins in the organs using the immune-electromicrography.	Seiichi Chiba
Molecular Cell Biology	The course aims to learn the molecular analysis of human diseases using in vivo and in vitro disease models.	Toshikatsu Hanada Nobuyuki Shimizu
Matrix Biology	The aim of this course is to introduce the function of molecules and gene expression in extracellular matrix.	Noritaka Matsuo
Gene Technology	We aim to elucidate the mechanism of pathogenic bacterial infection by learning multifaceted analysis methods at the molecular/cellular level and the organ/individual level using experimental animals.	Hitomi Mimuro Tomohiro Miyoshi
Molecular Pharmacology	Introduce the methods and knowledge needed to explore new target molecules for drugs.	Toshimasa Ishizaki
Advanced medical life science	The aims of this course are: 1) to study animal anatomy, 2) to practice animal experimentation, 3) to learn how to observe healthy /diseased cells and tissues under a microscope, 4) to learn methods in molecular biology such as DNA extraction.	Keiko Matsuura
Molecular and Cellular Immunology	To learn the molecular and cellular basis of protective immune responses against infection and inflammatory <i>disorders caused by dysregulated immune responses.</i>	Takashi Kobayashi Naganori Kamiyama
Arthropod-borne infectious diseases	To learn diversity of transmission modes of infectious diseases transmitted by blood-feeding insects and acari and environmental factors, in particular global warming, influencing the modes of transmission.	
Microbiology, Infection and Immunity	Research for host-parasite relationship in viral and bacterial infections and development of therapeutic- and preventive-strategy	Satoshi Komoto
Molecular diagnosis and targeting therapeutics	Studying the current status and practical R&D of molecular targeting drugs against infectious diseases and cancers with a focus on virus-induced hematological malignancies.	Hidekatsu Iha
Epidemiology of infectious diseases	To study the mode of transmission of viruses through epidemiological bases and methods.	Osamu Tokumaru Akira Nishizono Isao Saito

Subject	Details of Subject	Faculty Member
Molecular Epidemiology of Gastroduodenal Diseases	We learn the techniques on genome sequencing, bioinformatics and molecular biology on <i>Helicobacter pylori</i> infection and the mechanisms to develop gastroduodenal diseases including gastric cancer, and explore global epidemiological study on this infectious disease.	Yoshio Yamaoka Takashi Matsumoto Yuichi Matsuo
Public Health of Sleep	Sleep behavior are closely related to human health. Graduate students study the public health about sleep behavior in this program. They also study the method of epidemiological research.	
Clinical Epidemiology	To study for the structural analysis and solutions using the epidemiological approach to the problem encountered in clinical medicine. In particular, we study on cardiovascular epidemiology in the population. Our purpose is to provide the epidemiological skills to carry out investigations in the population, learning of the all level from the basics to the advanced level.	Isao Saito
Industrial Hygiene and Toxicology	Is used in the industry spot; learn the revelation of the chemical substance, absorption distribution, metabolism, the change of the chemical substance by each process of the excretion to prevent the poisoning of the chemical substance in various way, and can practice practical poisoning precaution.	
The postmortem determination of the cause of death	Participants will study the effects of postmortem changes on the techniques used in clinical medicine and acquire the skills to determine the causes of death.	Shinjiro Mori
Biophysical Chemistry	Structures, functions, and reactivities of biomolecules are physiochemically discussed.	Masato Tanigawa Megumi Shimoda
Microcirculatory Science	The morphology and function of orioles, blood capillaries and venules are studied. In addition, organization and distribution of the lymphatic system are also discussed.	

### 【Clinical Research Field】

Subject	Details of Subject	Faculty Member
Molecular Medicine of Endocrinology, Metabolism, Immunology and Nephrology	We investigate pathogenesis and pathophysiology of endocrine disorder, autoimmune disease, and lifestyle-related diseases such as obesity, diabetes mellitus, hypertension, and kidney diseases.	Hiroataka Shibata Akihiro Fukuda Yuichi Yoshida
Evidence-Based Medicine for Clinical Practice including Diagnosis and Treatment in Respiratory Medicine and Infectious Diseases	The purpose of this category is to perform and establish the highly theoretical approach (evidence-based medicine) of diagnosis and therapy in respiratory medicine and infectious diseases through the basic and clinical research as well as to get the license of respiratory medicine- and infectious diseases-related specialist.	Kazufumi Hiramatsu Kosaku Komiya
Clinical neuroscience and Dementia and Medical Sciences	Basic and clinical research on the pathogenesis, prevention, diagnosis and treatment of neurological diseases and dementia.	Noriyuki Kimura Teruaki Masuda Kaori Sumi
Strokeology	Experimental and clinical studies regarding stroke pathomechanism, the development of methods for diagnosis, treatment and prevention of stroke.	

Subject	Details of Subject	Faculty Member
Carcinogenesis and Infection in Digestive Diseases	Research of interaction between gastroenterological inflammation and carcinogenesis with molecularbiology.	Masaaki Kodama Kazuhiro Mizukami Mizuki Endo Takuro Uchida
Gastrointestinal endoscopy	Research of gastro-intestinal and billiary-panceatic disease using endoscopy.	Masaaki Kodama Kazuhiro Mizukami Yuka Hirashita
Clinical Cardiology (From molecule to Bedside)	We aim to study the pathophysiology of cardiovascular diseases, and perform the translational researches from the viewpoint of the basic mechanisms of those diseases. In particular, we set targets on disclosing the pathophysiological mechanisms of the development of ischemia/reperfusion injury and accompanying heart failure as well as critical arrhythmias including atrial fibrillation and their treatments.	Naohiko Takahashi Hidefumi Akioka
Clinical cardiology (From molecule to Bedside)	We aim to comprehend the aging-induced changes of cardiovascular system, and proceed the translational researches to understand the pathophysiology of cardiovascular diseases from the viewpoint of scenescence.	Yasushi Teshima Tetsuji Shinohara
Clinical diagnosis and therapy of cardiovascular surgery	We learn a surgical intervention method for heart problem/the artery disease and the adaptation and understand the merits and demerits to give the body of the surgery aggression.	Shinji Miyamoto Hirofumi Anai Takashi Shuto
Therapeutic mechanical circulatory assist	We learn the devices and methods of long term mechanical circulatory assist for severe heart failure and temporary cardiac and pulmonary assist.	Shinji Miyamoto Hirofumi Anai Takashi Shuto
Cerebral blood flow and metabolism and Neurotrauma	Pathophysiology and treatment of neurotrauma (ischemic and traumatic brain injury).	Minoru Fujiki
Bio-psycho-social Aspects of Functional Psychoses	We investigate functional psychoses such as depression and bipolar disorder from the viewpoints of pathophysiology, symptoms, course, prognosis and treatment.	Hirofumi Hirakawa Kentaro Kohno Masaaki Muronaga
Mental health of older adults	We comprehensively investigate psychiatric disorders such as dementia in older adults from the viewpoints of pathophysiology, symptoms, course, prognosis and treatment.	
Developmental Medicine and Child Neurology	Practice general movements assessment in preterm, term and young infants. We investigate the relationship between autonomic nervous function maturation and general movements in preterm infants.	Tomoki Maeda
Clinical Genetics	To learn medical application of molecular biology and genetics for the diagnosis, management and counseling for genetic diseases in the field of perinatal medicine and pediatrics.	Kenji Ihara Masanori Inoue
Developmental Allergology	The preventive and therapeutic strategies for pediatric patients with allergies are discussed, focusing on the immunological, nutritional, environmental, and genetic factors that contribute to the age-dependent resolution of these conditions.	Hiroyuki Wakiguchi

Subject	Details of Subject	Faculty Member
Ophthalmology pathophysiology and treatment	We assess the pathology of vision-threatening eye diseases by means of updated examinations. We also investigate the modality of treatment including operation on the eye diseases.	Atsunobu Takeda
Science of Visual Physiology	We evaluate the visual function by means of psychophysical and other objective examinations.	Katsuhiko Yokoyama
Mucosal immunology in the respiratory tract	Mucosal immune system of upper respiratory tract particular reference to the ear and nose, and mucosal vaccine development for otitis media and sinusitis.	Takashi Hirano Tetsuo Watanabe Toshiaki Kawano
Basic and Clinical Science of Wound Healing	We investigate the mechanisms and pathogenesis of wound healing and we learn how to make diagnosis and treat chronic ulcers. Through these processes, we train to make new ideas for investigations.	Yutaka Hatano Fumiaki Shimizu Mizuki Goto
Molecular and Immune Pathology of the Skin	We discuss the latest research from a technical and a scientific point of view and review the pathogenesis of skin diseases based on histopathology and molecular biology. Through these processes, we learn the wide knowledge about the related diseases and the history of the research, and we train to get the critical ability.	Yutaka Hatano Mizuki Goto Takashi Sakai Haruna Hirose
Oxidative stress after systemic inflammatory insults	Major insults such as surgery, multiple trauma or septic shock induces systemic inflammatory response. Neutrophils activated by this response release a large amount of reactive oxygen species which cause excess oxidative stress. Excess oxidative stress can lead to widespread endothelial cell injury and multiple organ failure which are associated with poor outcome. Consequently, it is the most important to establish the method to control not only inflammatory response but also oxidative stress in the perioperative management.	Shigekiyo Matsumoto Chihiro Shingu Tetsuya Uchino
Acute inflammation and organ injury	Septic shock, multiple trauma and surgical stress induce excessive inflammatory responses, which lead to multiple organ injury. The main goal of this course is to investigate the relationship between acute inflammatory mediators and multiple organ injury, and consequently develop new therapeutics.	Yoshimasa Oyama Yoshifumi Ohchi
Diagnostic Imaging of Orthopaedic surgery	You study how to read the orthopaedic images and get the point of the diagnosis using the orthopaedic images from clinical case.	Nobuhiro Kaku Masashi Miyazaki
Clinical Therapy of Orthopaedic surgery	You study how to plan the surgical orthopaedic procedure from clinical case.	Nobuhiro Kaku Masashi Miyazaki Masanori Kawano
Surgical Science of clinical diagnosis and therapy	Regarding gastrointestinal diseases, we have a conference on such as a preoperative diagnosis, selection of operative procedure, observation and diagnosis of resected specimen, and aim at developing scientific and clinical judgment, acquiring comprehensive clinical skills.	Masafumi Inomata Tsuyoshi Etoh Hidefumi Shiroshita
Surgical Science of Molecular biology and oncology	From an intra-cellular signaling point of view, we learn the mechanisms for growth, invasion and progression of tumor, and study clinical applications to control of tumor.	Masafumi Inomata Tsuyoshi Etoh Yoshitake Ueda Yuichi Endo

Subject	Details of Subject	Faculty Member
Pathophysiology of Voiding Function	To learn the diagnosis and treatment for lower urinary tract dysfunction (LUTD) based on pathophysiological approaches.	Toshitaka Shin Tadasuke Ando Toru Inoue Shinro Hata
Reproductive and perinatal pathophysiology	To learn concerning the physiology of reproductive phenomena such as follicular development, ovulation, fertilization, implantation, and maintenance of pregnancy, as well as pathological conditions that impede fertility.	Eiji Kobayashi Yasushi Kawano Masakazu Nishida Kentarou Kai
Radiological Science of Diagnostic Imaging	To learn general radiological diagnosis, including CT, angiography, ultrasound, nuclear medicine and MRI based on pathology, anatomy, gene abnormality, and clinical presentations.	Yoshiki Asayama Norio Hongo
Science of Less Invasive Therapy	1. To learn less invasive therapy such as radiation therapy and interventional radiology (IVR). 2. To learn clinical oncology including gene polymorphism and methodology of development research for intravascular treatment.	Yoshiki Asayama Norio Hongo
Emergency and Critical Care Medicine	Clinical/basic research, aiming at elucidating pathophysiology of critical conditions, such as sepsis, and establishing useful diagnostics and therapeutics. Development/improvement of artificial organ support or development of new device/system to achieve appropriate emergency medical care.	Ryuzo Abe
Stroke and Emergency Neurology	We learn and research the most up-to-date diagnosis and therapy about the emergency disorder of central nervous system, especially stroke.	
Scientific basis of clinical pharmacology and pharmacotherapeutics	Analysis for Pharmacotherapeutics is studied the Clinical Drug Evaluation and Clinical Pharmacogenetics based on the rational drug therapeutics.	Naoto Uemura Megumi Kai Shin-Ichi Nureki Hirokazu Wakuda
Clinical Pharmacology and Pharmacogenetics	We learn the method to study an internal change of the drug and can carry out drug therapy monitoring.	Naoto Uemura Megumi Kai Shin-Ichi Nureki Hirokazu Wakuda
Pharmaceutical Medicine and Communication	Pharmaceutical medicine and communication is the subject to educate the staff working for drug development and fostering with high creativity and good communication skills, and with the mind of logic and ethics for clinical research.	
Therapeutics for Oral-maxillofacial Diseases	Study the genes involved in the estimation of therapeutic effects of chemotherapy in metastatic cancer, cancer from precancerous lesions and its factors, oral mucous membrane cancer, craniofacial morphology and masticatory function, jaw-facial congenital malformations, diseases, development of cleft lip and cleft jaw, oral lesions and pathological physiology.	
Basic Science of Hard Tissue Diseases	The aims of this course are to study reconstruction of the maxilla and mandible, regeneration of bone and cartilage by inducing differentiation of bone marrow stem cells, and bone augmentation for the dental implant treatment.	
Proper use of drugs	The purpose of this category is to develop evidence-based applied pharmacotherapy.	Hiroki Ito Ryota Tanaka



Subject	Details of Subject	Faculty Member
Practice-Based Research on Community and General Medicine	Practice-based research: Analysis of social, psychological and immunological factors which induce acute exacerbation of chronic diseases in community rural areas.	Seiji Shiota

### 【Cancer Research Field】

Subject	Details of Subject	Faculty Member
Development of Targeted Cancer Therapies	The aim of this course is to develop the human resources with both knowledge of clinical and basic research for cancer.	Masao Ogata Satoshi Otsu Naoki Hijiya Kuniko Takano Akiko Todaka
Diagnostic Pathology of Cancer	The aim of this course is to gain the knowledges and skills of diagnostic pathology for the neoplastic diseases, including morphology, immunohistochemistry and genetic analysis.	Tsutomu Daa Naoki Hijiya Haruto Nishida
Surgical Science and Thoracic Oncology	Graduate students will learn molecular mechanisms of pathogenesis and progression of thoracic malignant tumors. They will also learn therapeutic strategies for these malignant tumors, through basic findings and clinical evidences that were obtained from translational research and clinical trials.	Atsushi Osoegawa Miyuki Abe
Endoscopic Surgery	We discuss the significance of a new technical development of endoscopic surgery with minimal invasiveness, from the point of view that how they affect systemic and local immunities, and also growth, invasion and progression of tumor.	Masafumi Inomata Hidefumi Shiroshita Shigeo Ninomiya Yuichi Endo
Radiation Oncology	1. To understand standard radiation therapy for external irradiation to a wide variety of diseases. 2. To understand the indication, method, treatment effect and adverse effect for standard external irradiation, stereotactic radiotherapy, intensity-modulated radiotherapy (IMRT), and brachytherapy. 3. To learn clinical significance of radiation therapy in the area of cancer treatment.	Yoshiki Asayama Norio Hongo
Medical Oncology	The aims of this course are: 1) learning indication of chemotherapy for cancer, 2) learning supportive care, 3) learning methodology of response evaluation, 4) understanding pharmacology of anticancer agents, 5) understanding methodology of clinical research for cancer, 6) establishment of standard chemotherapy, and 7) development of novel anticancer agents (including molecular target agents and immunotherapy).	Masao Ogata Satoshi Otsu Kuniko Takano Akiko Todaka
Palliative Medicine	We understand the mechanism of the cancer-pain and understand the theoretical backgrounds of the multidirectional care, such as scientific diagnostic methods, drug therapy and the nerve blocks, and learn the technical skills.	
Clinical Management for Respiratory Malignancies	The purpose of this category is to perform and establish the highly theoretical approach (evidence-based medicine) of diagnosis and therapy in respiratory malignancies through the clinical research as well as to get the license of anticancerous chemotherapy specialist.	Kazufumi Hiramatsu Kosaku Komiya

Subject	Details of Subject	Faculty Member
Diagnosis and treatment for the tumor of digestive organs	Research of recent progress of diagnosis and treatment for gastroenterological cancer, and possibility of QOL improvement of patients with carcinoma.	Masaaki Kodama Kazuhiro Mizukami Mizuki Endo Yuka Hirashita
Diagnosis and therapy for genitourinary tumors	A diagnosis and the treatment that were based on a characteristic of a cell / the molecular biology of the kidney urinary passage sex rgans tumor.	Toshitaka Shin Tadasuke Ando Toru Inoue Shinro Hata
Clinical diagnosis and treatment of gynecologic tumor	The aim of this course is to learn about the pathogenesis and pathophysiology of the gynecologic tumors.	Eiji Kobayashi Masakazu Nishida Kentarou Kai
Diagnosis and therapy for disease of the breast	Graduate students will learn molecular mechanisms of oncogenesis and progression of breast cancers. They will also learn diagnostic and therapeutic strategies for breast cancer, through basic findings and clinical evidences that were obtained from translational research and clinical trials.	Atsushi Osoegawa Yohei Takumi
Clinical diagnosis and therapy for brain tumors	General diagnosis of brain tumors with morphological, functional and biological techniques.	Minoru Fujiki
Diagnosis and Management of the Skin Cancer	We understand the histopathological and molecular levels of cutaneous neoplasms and we learn how to make diagnosis and treat them.	Yutaka Hatano Fumiaki Shimizu Mizuki Goto Takashi Sakai
Diagnosis and Treatment of Bone-and Soft Tissue Tumor	The aim of this course is to acquire the knowledge of the molecular mechanisms of oncogenesis of bone and soft tissue tumors (sarcomas), and to learn diagnosis and treatment of bone and soft tissue tumors (sarcomas).	Nobuhiro Kaku Kazuhiro Tanaka Ichiro Itonaga Masanori Kawano
Diagnosis and Therapy for Head and Neck Tumors	In the head cervix, the internal organs with various functions are adjacent, and a symptom / the views by the tumor which broke out in this domain are characteristic each. We learn it from the internal organs of the head cervix about the control of a tumor breaking out and a clinical problem of the basics about the maintenance of function by this lecture.	Takashi Hirano Kenji Kawano
Pediatric Hematology and Oncology	The aim of this course is to understand the development and basic pathogenesis of childhood hematologic malignancies, solid tumors, principles of treatment, and concepts of long-term follow-up.	
Community and Homecare Medicine in Oncology	The aim of this course is to acquire the knowledge and skills on clinical oncology, to improve the quality of oncological medical care in community hospitals in cooperation with specialists in other departments, and to acquire the abilities to provide homecare medicine for patients with advanced cancer.	
Therapeutics of Clinical Oncology	The aim of this course is to acquire a deep knowledge and high skills of clinical oncology including surgical treatments, radiation therapy, drug therapies and palliative care and to acquire abilities to provide safety medical oncological care.	

## 【Physical Therapy Research Field】

Subject	Details of Subject	Faculty Member
Scientific Basis of Physical Therapy	The aim of this course is to introduce the cutting-edge research supporting clinical practice of physical therapy. Specifically, topics including disuse syndrome, lymph microcirculation, ischemia/reperfusion injury, and brain-machine-interface and artificial intelligence will be covered.	Osamu Tokumaru Keisuke Kawakami Rui-cheng Ji Hisato Sugata Syotaro Otsuka
Nervous and Motor System-Related Physical Therapy	In this practice, we will not only lecture the individual knowledges and techniques in neuroscience and biomechanics, but also train the physical therapist and researchers who can clarify these brain-movement relationships.	Osamu Tokumaru Keisuke Kawakami Rui-cheng Ji Masaharu Asai Masaya Anan Hisato Sugata Hiroki Mani Syotaro Otsuka

## 5. Course Registration

- (1) The Doctoral Course at this university's Graduate School is four years. 30 credits must be attained to complete the Course.
- (2) The requirements for the 30 credits are as follows;
  - 1 course must be selected from the common course (each worth 5 credits).
  - 1 course must be selected from affiliated courses (each worth 5 credits).
  - 1 course must be selected from any fields (each worth 5 credits) These 3 total 15 credits.
  - Research Paper on topic decided as Research Proposal (worth 5 credits).
  - Doctoral Thesis (worth 10 credits) once it passes the examining committee.

## 6. Degree Conferral

- (1) Awarded the degree of Doctor (Medicine)
- (2) Degree will be awarded to those who complete at least four years studying at the Graduate School, complete at least 30 credits and complete and pass the Doctoral Thesis or the completion examination.  
However, degrees may be awarded to graduate students who have completed over three years studying and have achieved outstanding research achievement.

## 7. Scholarships

The Japan Student Support Organization Scholarship and Loans supports monthly accommodation as follows.

1st Category Graduate School Scholarship (interest free)	Monthly Amount	80,000 JPY or 122,000 JPY
2nd Category Graduate School Scholarship (interest bearing)	Monthly Amount	50,000 JPY, 80,000 JPY, 100,000 JPY, 130,000 JPY or 150,000 JPY (Select)

## 8. Childcare Support Subsidy

To support students in balancing childcare and academic work, Oita University will pay a portion of the cost of childcare support services.

For more details, please contact the Gender Equality Promotion Office (TEL 097-554-8573, E-mail [fsupport@oita-u.ac.jp](mailto:fsupport@oita-u.ac.jp)) .

## 9. Student Research Accident Insurance

This compensation insurance covers accidents causing injury and death etc., during the period a student is enrolled in the graduate school and is conducting research, experiments, laboratory training, and other official study time, travel to and from the school, during school events, during study activities off campus. The cost for 4 years of cover is 3,370 JPY.

Information on application will be sent to students who are accepted to study at the university.

## 10. Information on Extension of Study Term

The Extension of Study Term is available when it was planned from the start of study that the degree will require longer time to be completed. People with difficult circumstances (domestic affairs, child rearing and care-givers etc.) may apply for the Extension of Study Term if necessary.

It is required that the Extension for Study Term application to be made at time of enrollment.

It is possible to shorten the time initially extended to if circumstances is changed during the course.

If the Extension of Study Term is granted, annual School Fees the following is an example of Annual School Fee.

How to apply for the Extension of Study Term will be explained on acceptance to study.

### 【Example of Annual School Fees】 (Amount may vary depending on school year)

Regular Study Period (4 YRS) Yearly School Fee Amount 535,800 JPY

1YR	2YR	3YR	4YR	
535,800 JPY	535,800 JPY	535,800 JPY	535,800 JPY	2,143,200 JPY

Annual School Fees if at time of enrollment, an Extension of Study Term was granted and a study term of 8 years was decided. (AMOUNTS IN JPY)

1YR	2YR	3YR	4YR	5YR	6YR	7YR	8YR
267,900 JPY	267,900 JPY	267,900 JPY	267,900 JPY	267,900 JPY	267,900 JPY	267,900 JPY	267,900 JPY

$2,143,200 \text{ JPY} \div 8 \text{ YRS} = 267,900 \text{ JPY}$  (ANNUAL SCHOOL FEES)

# 11. Contact Information of Faculty Members (e.g., Professors) (as of May 2025)

Tutor	Extension No.	Fax No.	E-mail	Specializing Research Field
Hidefumi Akioka	6166	097-586-6166	akioka0920	Taketa Cardiology
Masaharu Asai	554-7551	097-554-7551	ma-asai	Physical Therapy in Internal Medicine and Community Based Physical Therapy
Yoshiki Asayama	5934	097-586-0025	asayama	Radiology
Hirofumi Anai	5138	097-586-5146	anaiana	Artificial Organs and Mechanical Circulatory Assist
Ryuzo Abe	6602	097-586-6600	ryuzoabe	Emergency and critical care medicine
Tadasuke Ando	5893	097-586-5899	chyusuke	Kidney transplantation
Toshimasa Ishizaki	5722	097-586-5729	t-ishizaki	Cell Biology for Drug Discovery
Hiroki Ito	6100	097-586-6119	itoh	Pharmacokinetics
Masafumi Inomata	5840	097-586-5962	inomata	Gastroenterological and Pediatric Surgery
Kenji Ihara	5830	097-586-5839	k-ihara	Pediatrics
Hiromitsu Imai	5600	097-586-5619	imaih	Medical Ethics
Yoshitake Ueda	6308	097-586-5624	yoshimd	Comprehensive surgery for Community medicine
Naoto Uemura	5950	097-549-6044	uemura	Clinical Pharmacology and Therapeutics(CPT)
Tsuyoshi Etoh	5409	097-586-5409	teto	Gastroenterological Surgery Viral engineering therapy for cancer
Masao Ogata	6275	097-586-6276	mogata	Medical Oncology and Hematology
Atsushi Osoegawa	5853	097-586-6449	osoegawa- ths	Thoracic and Breast Surgery
Nobuhiro Kaku	5872	097-586-5872	Nobuhiro	Orthopaedic surgery
Keisuke Kawakami	554-7735	097-554-6124	kkawakami	Physical Therapy Fundamentals
Kenji Kawano	6703	097-549-2838	kekawano	Oral and Maxillofacial Surgery
Yasushi Kawano	5921	097-586-6687	kawayas	Obstetrics and Gynecology
Noriyuki Kimura	5814	097-586-5814	noriyuki	Neurology
Satoshi Komoto	5455	097-586-5455	satoshik	Virology
Kosaku Komiya	5801	097-549-4245	komiya <sup>h1</sup>	Respiratory Medicine and Infectious Diseases
Masaaki Kodama	5194	097-586-6194	kodm	Gastroenterology
Eiji Kobayashi	5922	097-586-6687	ekobayashi	Obstetrics and Gynecology

Tutor	Extension No.	Fax No.	E – mail	Specializing Research Field
Takashi Kobayashi	5702	097-586-5197	takashik	Parasitology and Immunology
Isao Saito	5730	097-586-5739	saitoi	Public Health and Epidemiology
Hiroataka Shibata	5793	097-549-4480	hiro-405	Endocrinology, Metabolism, Rheumatology and Nephrology
Hidefumi Shiroshta	5843	097-586-5962	hshiro	Gastroenterological surgery
Toshitaka Shin	5893	097-586-5899	shintosh	Urology
Naohiko Takahashi	6037	097-586-6166	takanao	Cardiology and Clinical Examination
Atsunobu Takeda	5904	097-549-6043	atsutakeda	Ophthalmology
Kazuhiro Tanaka	5872	097-586-6647	tanaka	Orthopaedic surgery, Bone and soft tissue tumor
Masato Tanigawa	5603	097-586-5619	tanigawa	Biophysics
Tsutomu Daa	6098	097-586-6098	daatom	Diagnostic Pathology
Yasushi Teshima	5192	097-586-6166	teshima	Cardiology and Clinical Laboratory Medicine
Osamu Tokumaru	554-7972	097-554-7972	ostokuma	Physiology
Yutaka Hatano	5882	097-586-5889	hatano	Dermatology
Toshikatsu Hanada	5662	097-586-5665	thanada	Disease Biology
Reiko Hanada	5642	097-586-5649	reiko-hanada	Neurophysiology
Fumihiko Hamada	5620	097-586-5623	hamadafl	Anatomy and Cell Biology
Takashi Hirano	5913	097-586-5913	thirano	Otolaryngology
Kazufumi Hiramatsu	5406	097-586-5419	hiramats	Medical Safety Management
Minoru Fujiki	5860	097-586-5869	fujiki	Neurosurgery
Keiko Matsuura	5608	097-586-5619	matsuura	Medical Life Science
Hitomi Mimuro	5630	097-586-5437	mimuro	Bacterial Infection Biology
Shinji Miyamoto	6730	097-586-6739	smiyamot	Cardiovascular Surgery
Shinjiro Mori	5751	097-586-5754	gzzz91vgwxs	Department of Forensic Medicine
Yoshio Yamaoka	5740	097-586-5749	yyamaoka	Environmental and Preventive Medicine
Kyoko Yamamoto	6741	097-586-5593	kyoko-yamamoto	Medical Education General medicine
Hiroyuki Wakiguchi	5833	097-586-5839	wakiguchi	General Pediatrics and Emergency Medicine
Hidekatsu Iha	6224	097-586-5719	hiha	Molecular Viral Oncology
Tatsuki Kurokawa	5651	097-586-6646	tkurokawa	Pathophysiology

Tutor	Extension No.	Fax No.	E-mail	Specializing Research Field
Kei Shimoda	5606	097-586-5619	shimoda	Biomedical Chemistry
Seiichi Chiba	5623	097-586-5623	schiba	Anatomy
Naoki Hijiya	5693	097-586-5699	hijiya	Molecular Pathology
Tomoki Maeda	5833	097-586-5833	tmaeda	Pediatrics
Noritaka Matsuo	5672	097-586-5674	matsuon	Matrix Medicine
Shigekiyo Matsumoto	5943	097-586-5943	sigekiyo	Anesthesiology and Intensive Care Medicine
Tetsuo Watanabe	5913	097-586-5913	twatanab	Otolaryngology

(Remarks)

1. Persons intending on applying, should contact the tutor before sending application.
2. When calling in from outside the city, please first call area code 097 then the first part of the phone number 586 then the extension number above to speak directly to the tutor of your choice.
3. Email's should be sent to the above email name with @oita-u.ac.jp following it.

## Location Map of Oita University

### Graduate School of Medicine, Oita University (Hasama Campus) \*Examination Hall

Address: 1-1 Idaigaoka, Hasama-machi, Yufu-city 879-5593

Tel: 097-586-5540, 5541

Access: ◎By bus (Oita Bus)

From Bus Stop Chuo Dori◎ in front of the 'Tokiwa Department Store', at Oita Bus Co., take a bus to 'Daigaku Byoin'. From Bus Stop 5 in front of JR Oita Station Funai Chuo Exit(North exit), take a bus to 'Daigaku Byoin'. It is about a 40-minute-ride.

### Entrance Examination Division, Student Support Dept., Oita University (Dannoharu Campus) \*Admission Application and Enrollment

Address: 700 dannoharu, Oita-city 870-1192

Tel: 097-554-7006

Access: ◎By JR train (JR Hohi Line)

Get off at Oita Daigaku Mae. It is a 15-minute-ride from Oita Station. 5-minute-walk from Oita Daigaku Mae train station.

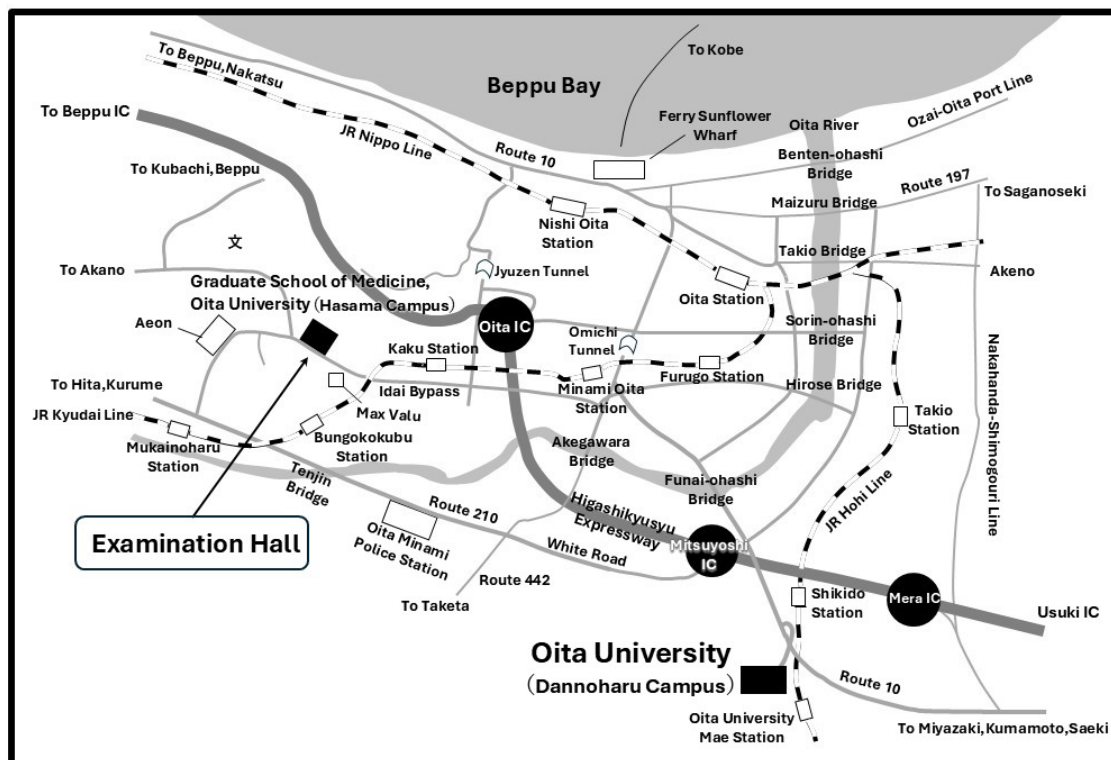
◎By bus (Oita Bus)

From Bus Stop 1 in front of the 'Tokiwa Department Store', at Oita BusCo., take a bus to;

○ 'Dainan Danchi / Takae New Town' and get off at 'Oita Daigaku' or 'Oita Daigaku Seimon'. It is a 40-minute-ride.

○ 'Hetsugi, Usuki, Saiki' and get off at 'Oita Daigaku Iriguchi'.

It is a 40-minute-ride. 10-minute-walk from bus stop.





## 入学試験に関する問合せ先

〒870-1192 おおいたしおおあざだんの はる 大分市大字旦野原700番地

大分大学学生支援部入試課

TEL 097-554-7006

For all enquires regarding the Entrance Examination

Entrance Examination Division, Student Affairs Department,

Oita University

700 dannoharu, Oita City, 870-1192

Tel 097-554-7006